守貞漫稿

巻二欠

巻三

30
15

前圖

13
2/30
41

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用

守貞謾稿巻之三

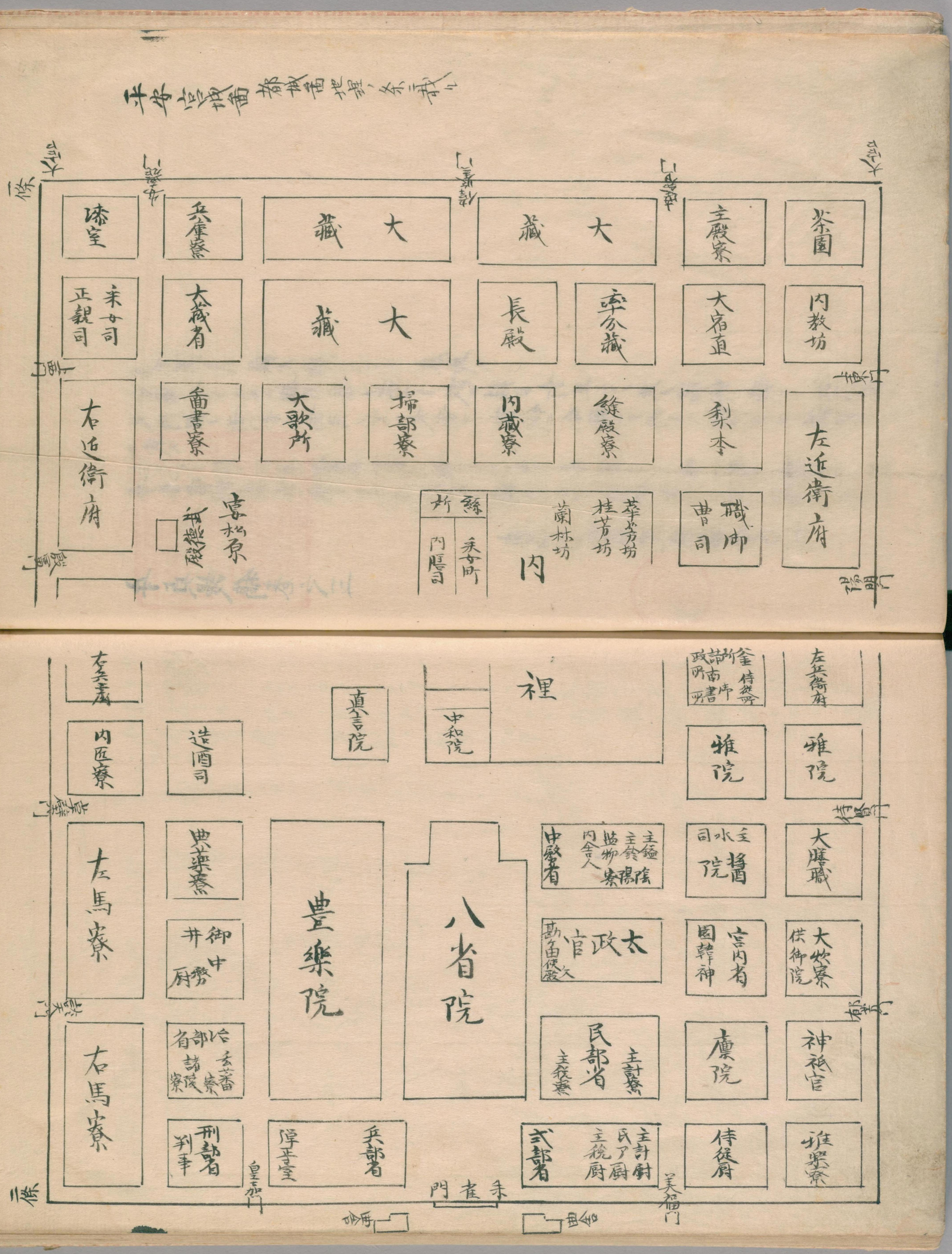
喜田川季荘尾張壽守貞誌

平安宮城ノ画左ニ画ス蓋余所蔵ノ圖考書ニ宮城画二ツ載ス一画直歩ヨリ左ノ(全十七ノ條ニ出ス)寛平以前ノ画ナラント今異ナラサルヲ唯一画ヲ縮写シテ左ニ載ス

又内裏ノ画ハ右ノ画考ノ中ニ大画ヲ散紙ニ分画シテ冊トス故ニ異ナル所アリ故ニ後日訂正シテ次ノ晶紙ニ載ント欲スル者

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

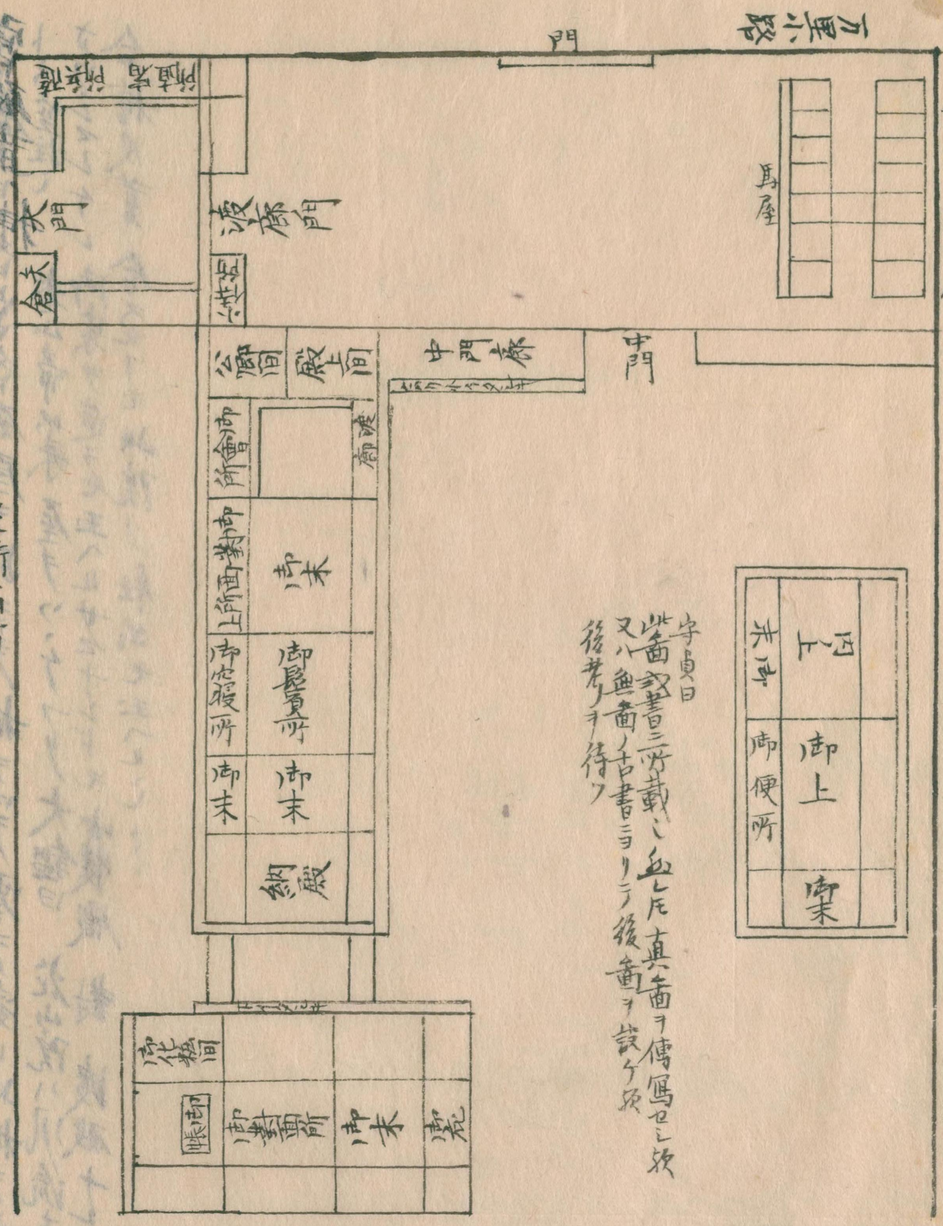
ガラス使用

宮殿ト古ハ各宮各殿屋ヲ別ニシテノ棺ヲ置
トヲ空柱シ 卷山帝ノ来 屋ヲツクリ大
ヲツクリマシケレ御棺ヲ造テモ玉ヘルサマナンドモ
合槽改葬 合スルトモ此院ノ仕出セル玉ヘルシ
ト

宮殿ト古ハ各宮各殿屋ヲ別ニシテノ棺ヲ置
トヲ空柱シ 卷山帝ノ来 屋ヲツクリ大
ヲツクリマシケレ御棺ヲ造テモ玉ヘルサマナンドモ
合槽改葬 合スルトモ此院ノ仕出セル玉ヘルシ
ト

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用



古ノ武家ノ事結構笑覧曰古代ノ武家ノ家ニ大門アリ其他所々ニ小門アリ大門ヲ入テ堺中門アリ夫ヨリ入バ遠侍シ今ノ大家ノ門ノ内ニ幕番所トカ所ノ如シ注曰遠侍ハ惣按屋ニシテ鍾倉事中行事見ユ此所ニ番ノ侍アリ色々武具モ掛ル遠侍ノ前ヲ通テ主殿ノ前ニ至ル客殿ニ出来ルニ十九ベシ如ト雖ニ室町殿ニ玄関アリシ事ヲ見ユ

中門源語蜻ノ程葉ニ六条院ノ中門ヲ名家以下月卿雲客ノ亭四足上中門有ベカラズ云々武士ノ屋ヲ造ル事ハ後世ノ風ニテ昔ハ惣テ屋造リシ事中門ノ如シ今ノ家同ク但棟門ヲ云ヘル事ハ多クハ門ヲ立ル事ハ稀ニ有々ニ初月々ノ如シ又上土中門ニ二種アル故ニ中門ヲハ今ノ玄関上土門ハ屋根ヲ土ニテヌリタルヲ云ヘル

冠木門 昔諸所ニ立ル処

埒重門 事跡合考ニ埒重門ヲ玄関ノ脇門ニ造ルト者ハ出陣ノ時旗ヲ伏ズンニ上サニ通スタメシ朝鮮人来聘ノ例ノ如シ埒重門ニ改ラレシ云々

四足門 屋ヲアル者ヲ用ヒラル高保中ニ古来ノ埒重門ハ上ニ六角口ガリドシ

棟門 ハ屋根アル門ニシテ東雅ニ和名抄門ノ下ニ上横梁也トヲ注ヲ引カサレト楣ハモト門ニ非ス儀礼朱雅ニ拠ニ屋制

土桀ノニヒノ排次、殿真次楯ヲ下ハ門ヲモ設ル所ヲ

土門　東鑑ニ右大將サヽヲ日本惣追捕使ノ奉リテノ天下ヲ壽ヲ
鏑モ土門ニ鏑板ヲ囲シトヨリ又砂石ヲ重ヲ
スベシ鏑板ハタイタト訓セリ　時ハ楯ヲ
又竪板ナルベシ　今ノ板塀ノ類シ　今ノ板
板ノ合セ目ニ細キ板ヲ用ヒ　細キ板ヲ月板トヲ鏑板ハ伊勢ノ神垣ノ如シ
如斯月ヒ幅ノ板ヲ各五ニ重ヲ名ケルベシ

玄関　和爾雅ニ玄関　繫理祢ヲ玄関　或ニ此説ワロシ書ヲ小車宮等ヲ如ク者ヒ
今世ハ禁裡ニ玄関無ヲノヒ
摂家　幕府ヲノ官家武家並皆玄関ヲ出

車寄セ

轅（ナガエ）

或書ニ云洛東松原通大和大路ノ愛宕寺ノ本堂方丈ハ五百年前ノ経ニシテ堂内ノ天井其外世ニ稀ナル美麗ノ壮厳シ日ク南面ニ方丈ノ舎屋上世ノ姿ニシテ世ニ希ナル舎屋ナルリ往テ見ルヘシ此舎ノ東ノ間ニ車寄セアリ開戸ニシテ世ニ唐戸ト云物ヲ鑓タリ屋根ノ唐破風世上ノ如ク作リタルモノニアラス平軒ノナラビヲ車寄ノ間ノミ唐破風ニ作リシ物ニシテ今世ノ唐破風造ハ華美ノ模様ニシテ古ニ違ヘリ此舎屋ノ様ヲ見レバ平軒ニテ車寄セ難ク軒ニ葺支ヘヌレバ車ヨスベキ所ノモサノ車ノ屋根ニ倣テ唐破風ニ造リシ物ナルリ此寺ノ形ニテ知レタリ車ハ川出スヤウリシニ長柄ヲ先ヘ出シ家ノ沂ヘヨセテ車ノ後ロヨリ乗リモセシ此車ヨセノ前ナル平門ノ柱ニモ扉ニモ矢ノ根多ク射込アル故ニ世ニ矢根門ト云此傳ハ房ハモトヨリ々ニアリテ此方丈ト云物ヲ思フニ昔両六波羅ノ時ノ旧舎ヲ其侭ニ方丈ニナセシ物ニヤアラン本堂ノ棟札ニ文保二年八月十四日トアリ

直銭八貫文し

檜皮葺　山城名勝志ニ鳴滝村ノ条ニ南義尾保古文書ヲ引テ云愛成寺善堂修理料檜皮榻拾井［注曰最上五尺井］縄侵真銭榻[illegible]貫文代被宛行檜皮大夫絶恒弘世云々［拾井價壱貫文し一井ハ方五尺五ツ手云欤］今世ハ檜皮ヲ挿ノ瓦ニ一坪代其ト云一坪ハ方六尺し

今世京師ノ御所及ヒ官家ハモトヨリノ其他モ京坂ノ大小ノ社祠皆葺ス檜皮葺ニシ江戸ハ大城大社ニ檜皮ブキ更ニ無之適々社祠ノ檜皮フキトテモ唯名ノミニテ実ハソキ板ブキノ精ナルノミ柳営及ヒ上野ノ親王家其他上祠ニ多クハ銅ヲ以テ瓦ノ形ニ模造シタルヲ用ヒ又京坂銅ブキ無之従モ市民ノ廟等ニ用モアルノミ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

柿葺　古ト今制トハ日カラザル故古今著聞集ニ渡辺ノ薬師堂ハ
マイラブキニテアリケルヲ修理スルコトヲエテ此堂建立其年記
ヲナヤブレバトハ十餘年ニナリニケリトイヘリ又多ク累ネ葺ルナルベシ
和名抄ニ柿削木ノ細片ヲ云其魚鱗ニ似タルヲイフトキ

厭火葺　太平記ニ常陸ニハ四品以下平侍スベキ関板ヲ許ズ！シ
武士ノ家ハ板葺草葺許ラシ　塩屋ヲ諸大夫ト雖モ

取葺　落穂集ニ江戸昔ハ柿葺更ニ無ク皆日光ソギ甲州
西鶴織留ニ伏見里ノ質店ノ取葺ヤネノ事ニテ
凡葺ニ白鮮ニ京格ヲ用ヒレコヤリ又
須エノ家ニ取葺屋根ノ輪廓ノ雫割ニセヨ
排ベシテ其上ニ石或ハ木ノ棟等ヲ載テ鎮トスルシ
有ク皆俗ノカワバヒヲスルシ淪ヲハ石ノ斡ビ
其上ニ石ヲ置ノ此石等ヲ載ルハ釘ヲ用ヒサル故ニ
手負ヒ今世ニ東海道荒井駅舞坂駅等
家宅ノ制ニ稍ルヲ見ルハ右ノ駅茶モ久ニカラズ
地葺　事跡合考元禄年中ノ条ニヲケラ
ルニ並ノ工合能ク敷モ地上ニヲ葺置其侭持上ゲ取合ノ所ニ
釘メニ致候間曽時ニ出来ノリ
今世モ有ク大屋ノ方ニテハ葺ハリニ葺ハ釘ニ
補理ス幕府急速臨時ノ葺ニ用ユ

次ニ画ス
京師ハ世
棚ノ画カケ
取リブキ
今世ハ専ラ
葛野葺ブキ
江戸ニモ
サンガワラ

市舎

東西市鄽舎ノ番　柳亭雑筆曰―――ノ番一舗何年ニ写セシ者トイフヿヲ知ラズ
トイヘドモ其裏ニ大宮院御葬ノヿヲ記シタリ大宮院ト称スルハ
後嵯峨院ノ后ニテ正應五年九月九日崩御シ玉ヘバ此番正應五年ヨリ
前ニ出シヿハ論ナキニヤ　サテ此番ヲ熟考スルニ市司トアルハ市正ノ廰ナルベシ
東西一町　南北半町ト見ユ　唐物ノ座トアルハ唐物ノ市物ノ座ト聞ユ市ノ座トアルハ
沽販ノ便ヲ定ムル場ニテ畿内ノ座トアルハ山城座大和ノ座ナドヲイフナルベシ　山城座ニ
ハ折薦　葉薦　枕席　廣席　食薦　薦　山城国ノ産物ヲ置　大和座ニハ
箕　甑　鍋　間杯　片杯　竈　薦　大和国ノ産物ヲ置タトミユベシ　此ハ山陽道ノ
座ニハ播ナ座大笞杯　小笞杯　箸　乳缶　美作座ニハ鉄　鍬　白絹ナルヿ推テ知ル
ベシ其他准ヒ　是今モ市ニ交易タル物ヲ座トイフノ本義ト聞ユ「国持ノ殿奥向
ナドニテ是ヘ座テアルアレハ座ナルベシナドモイヘタリモシ」又此市ノ座トアル絹　押移リテ市
ナラズ又町ニ住ル商人ノ家ヲモ何ノ座彼ノ座トイフヿニナリシナルベシ　但此市店舎
ヲハ延暦十三年ニ造ラレテ市人ヲ遷サレシト日本紀略ニ見ヘタレバ弘仁二年
ヨリ千十五年前ニハヤ座トイフハ出来シ　字書ニ廛ハ至止ル所ト見ユ天下ノ産物
ノ至リ止ル義ニ取ナルベシ古今集物名ニ毋貝ヲソリヿウハ玉ノ我里カミヤカハルラン鏡
ノ影ニ降ル白雪ト詠ルハ北野ノ紙屋川シ里キ紙ヲスリノ紙屋カ在ヨリヤガテ
川ノ名ニモ負ヒシ也シハ座ノ名ニヨリテ沽物ヲ知ルベキ為ナリシガ今ハ商人ノ
本貫ヲ以テ座ニ冠リ「伊セヨリ出シ人ノ伊勢座　尾張ヨリ出シ人ハオワリヤト
云カ如シ」故ニ伊勢座ニ日向ノ産物ヲ沽リ尾張座ニ美濃ノ所産ヲ売ルカ如ノ過ニ
心シセバ座ノ名ニテ商フ物ハ知リガタシ　是ヨリ一変シテ商人モ名字ヲ称スルニ
至レリ

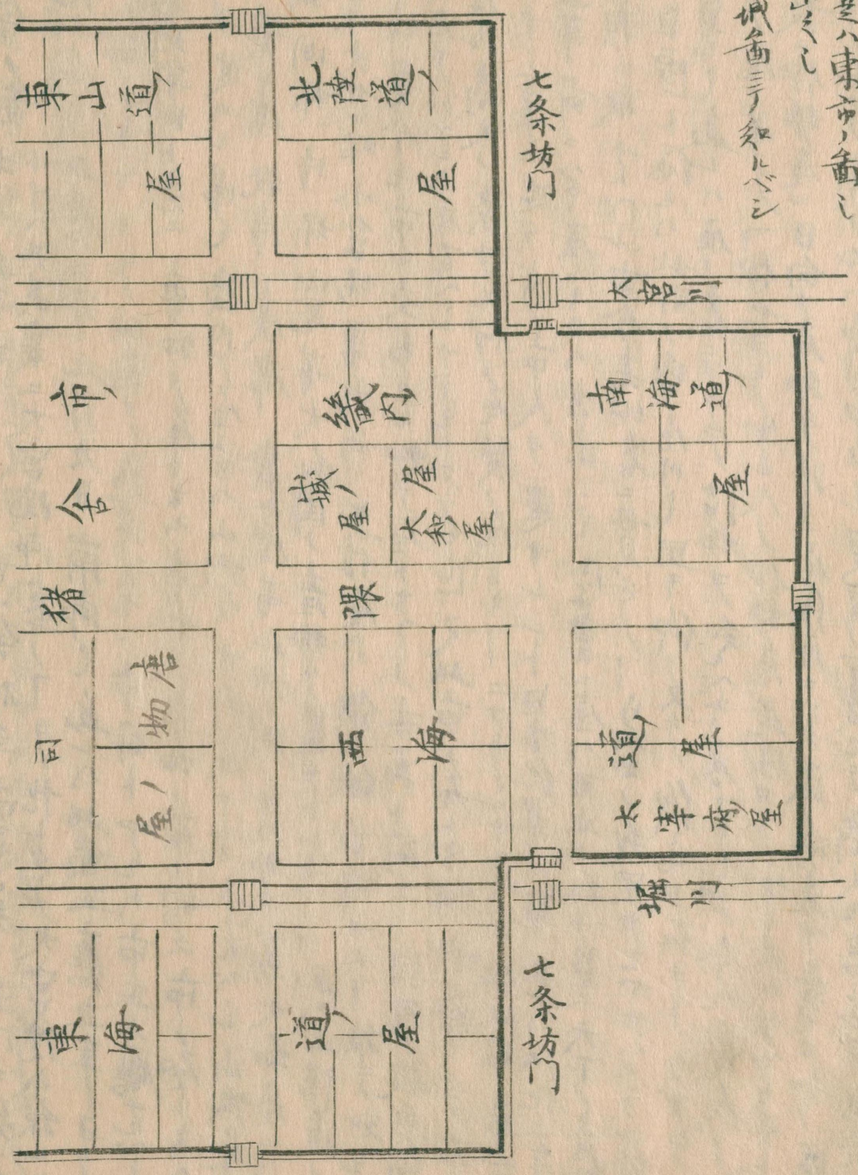
千十五年

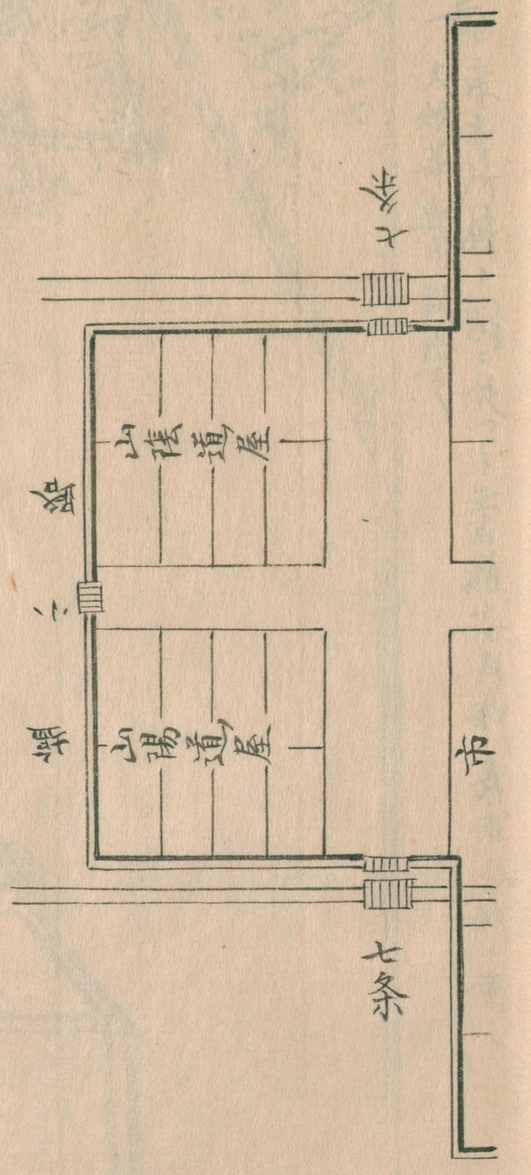
里カミヤカハルン
紙屋川

守貞曰今世ハ或ハ生国ヲ以テ某屋ト称シ或ハ自己ノ生国ニ非ストイヘドモ本家ト

東西市郭舎圖　嵯峨芥川氏藏　柳荼雜筆所載

守貞ヶ是ハ東市ノ畫ニシ
西市ハ准ズベシ
前ノ都城畫ニテ知ルベシ

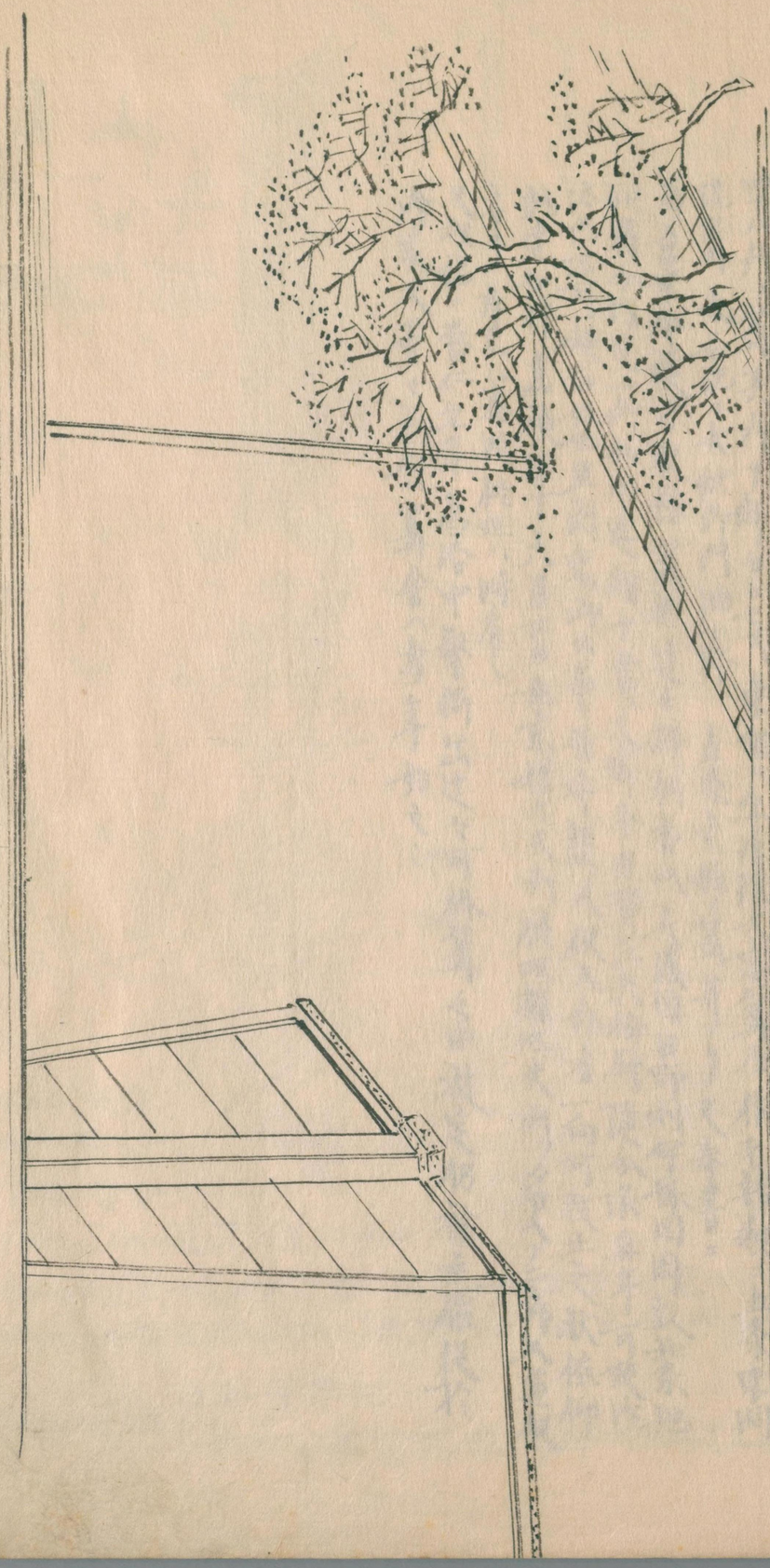




◎頼ノ人ノ家屋ヲ傳ヘ得シ或ハ家收ヲ以テ
持扶屋梅ヲ以ハ梅屋ト云ヘ或ハ賣物ヲ以テ
其他或ハ因ヲ以テ名ヲ屋号トスルモアリ或ハ
西屋中村屋ナドカニアリ賣物ヲ以テ屋号ト
号トスル古制ニ似ノ其意遠ヒ定收ニ據ニ
又今世市民ニ店坂ハ工商民ニ屋号アリテノ戸籍ニ不載屋故ニ或ハ有ラ或ハ無ラシ
又今世屋号アル物ニモ其屋号ヲヨベバ賣物ヲ以テ戸籍ニ称ラ故ヲヨベバ有ラ
屋トモ世是ハ言意ニ合ヘリ

中京寛記ニ應永廿七年十月廿日壬申春日條也ニ依為ニ今酒屋早朝南都ニ下向
天益大路ノ鍛屋着ク史員職行秀等同宿也ニテ依ヲヨベバ賣物ヲ以テ屋号ト
ス世ノ古ニ合ヘリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用



坊門之商 東寺所傳ノ圖ニ發ス下ニ名雜志所載武者合戰ノ畫ニ人物等無用故略ス

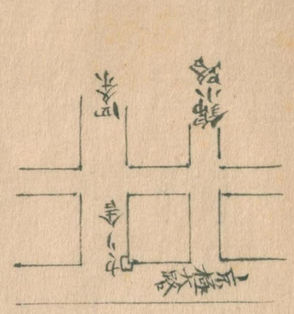
○并二巻二面セル平安都城ノ時ハ一町ノ市民三十二戸全ト割宛ト云ヘ共口四丈五尺餘乃チ京間十五間弱ニ奥行九丈五尺乃チ京間十五間弱ニ坪数百ヶ五坪ニ当リ美濃国可児郡ニ天正十二年ノ検地帳ニ百姓屋敷間口七間奥行十五間ノ者ハ二三反歩ヨリ多キヲ以テ課スルニ是亦一反ニ付二三百坪ノ割ト云ヘ共ト記ス由ニ豊氏モ古制ニ據テ定メタルニ此百五坪ヲ軍役ノ一反ニ付ト予カ按

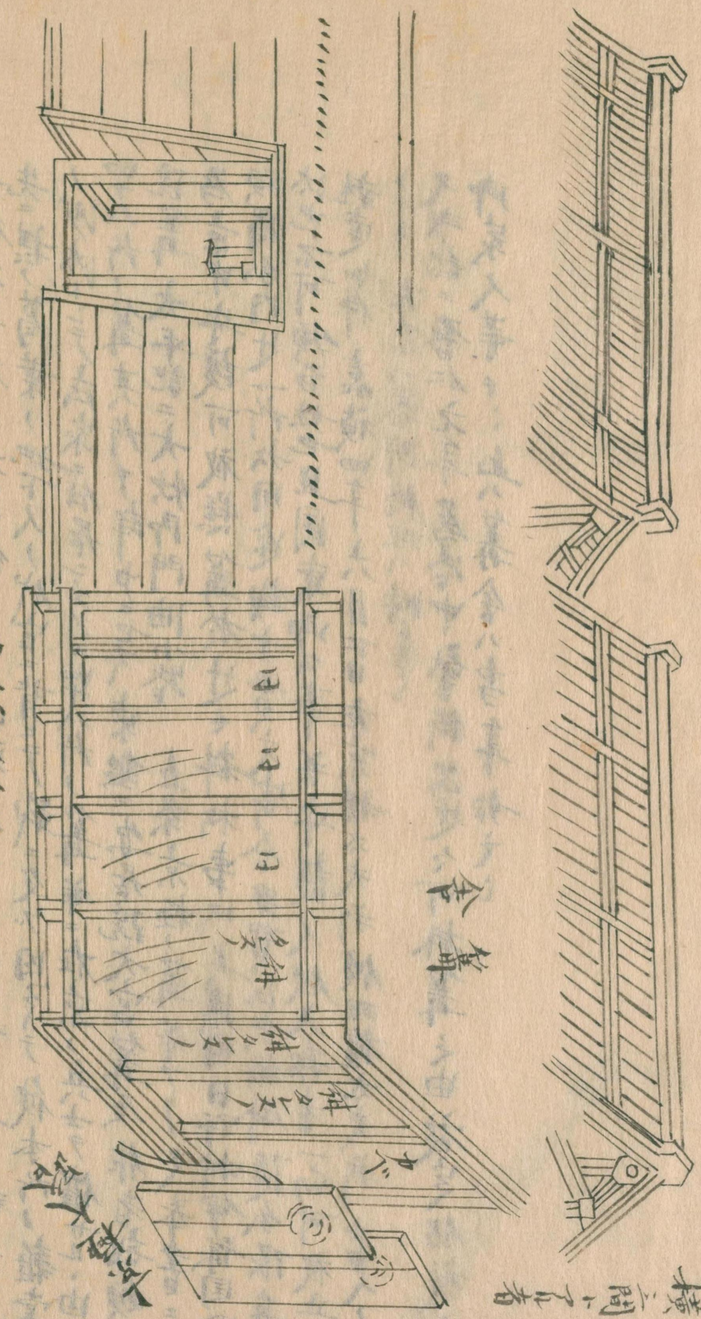
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

元徳元年九月六波羅ヨリ土岐頼兼多治美国長ニ討手ヲ遣ル是ヨリ
先ニ摂ノ葛葉ノ地下人ノ代官ニ背ヒテノ戦ニ及ビ因ミニテ彼本所ノ雑掌ヲ六波羅
ノ沙汰トシテノ在家ニ住居シタメニ四八所ノ籌舞并ニ在京ノ兵士ヲ催サル、由ニ為ケルアリ
四八所ノ籌舞其所ノ詳ヲニセズ東鑑ニ安居院大宮籌度作者部類ニ五条東洞
院籌舞太平記ニ大炊御門油小路五条京極ノ籌等アリ又奉書ニ
為京中安護可被懸籌於辻々料松事以美濃国日野村伊豫国周敷荘地
頭得分内辻一所松用途銭十毎貫文寄合多賀江兵衛尉随分限毎年可致沙
汰也不可煩百姓也且関東御公事并守護人使入部者一向可被止之状依仰
執達如件嘉禎四年六月廿日左京権太夫判修理権太夫判多カヘノ二郎入道殿
トアリ左京ハ泰時修理ハ時房ナリ又記ニ暫仁元年為洛中警衛出辻々可掛籌之由被定仍被充催役於
御家人等ニハ籌舎ハ当年始ヲシ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用





今ノ辻番所ノ権輿ト云ヘシ

異士来ル

此節ニ合ハリ

一本ニ法官里間横ニ問フル者

荒次ノ間板ニ牧書引廻ス役判足書報知ニ隅ヘリ

建武年記河原者ニ此頃都ハヅモノ

町毎ニ建ツ算屋ハ

算所一処ニ人倉司

判載

正安元年八月廿二日

伴法眼更シ

見世棚古画 骨董集所載
これハ鏡ヲうるところを絵巻ふ
載る京四条の町の見せ棚のさまなり此時代
まだ紙の時代ゆえ
つまびらかならざれ
ども多くハ文安宝徳のころの物と
あるハ考あることにや
りんずつさ

文安宝徳ヨ
リ今茲永二
至リ概四百一二
十年ニ

世ノ履物ハ
板金剛歟

ヒサキメ
賊婦が頭ニ
物ヲイタダキラ
ウリアルキ
シモ
フルキ凡ソ

牛車
今ハ異ナル
コトアリ

外ヨリ
頭ニ載セ
キ物
売ルモ
アリ

今ヌ浴

児童
ノ竹馬ヲ
見テ古ヲ
思ヒシ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用

見世棚 骨董集云今世ニ商人ノ物賣所ヲタナトモ見世トモ云古ハ家ノ端ニ
棚閣ヲマウケ其上ニ万ノ賣物ヲオキナラベテ賣ケル故ニタナトモ名起レリ
其棚ハ賣物ヲスヱオキ往來ノ人ニ見セテ賣ン為ニ構ル物ナレバ中古ハ
見世棚トモ云リ後世ニハ夫ヲ下略シテ見世トノミモイヽキ下ニ出セル古画ヲ見
テ古ノ見世棚ノサマヲ知ルベシ今餅屋ノ出シ臺トモ云物ナドハ見世棚ノナゴリトモ云
ベシ今モ京都ニ糸ノ棚 衣ノ棚 江戸ニ尼ダナ 十軒ダナナドヽ名残レリ 町家ノ
軒下ヲ棚下トモ云モ古キ言ノ残レルナリ 店ノ字ヲタナトモミセトモヨムハ義訓ナリ
和名抄ニ云四声字苑云店ハ坐賣物舎也 古今注云店所以置貨
鬻ミ物也トアリ 此字義ニヨリテタナトモミセトモヨムベシ 扨商人ノ物賣所ヲ
棚トモ云古キ証ハ宇都保物語ニ云 タナニ女アリテ物ウルナド ムナ車ニイヲニホ
ツミテモテキタリ アヅマリテヨミトリテノタナニスヱテウル 上庭訓往來云市町者
通辻子小路令構見世棚絹布類贄菓子有売買之便々様
可被取計也云 上庭訓ハ元弘四年ノ作ニ 奇異雑談集ニ「家スミシ婦人ニミ
テ夫ナシ一二年ヒトリヤモメニ常ニ茶屋ノ本座ニ居テ茶ヲウルオモテニ
イタヲモワタシカリニ棚ヲツリテ胡瓜五六ヲ出シテウルトミ 此書天文中ノ
作ニ○ 北條五代記天正十八年ノ条ニ云 扨又松原大明神ノ宮ノ前通町
十町ホドハ毎日市立テ七座ノ棚ヲ構ヘ売カスル物手買ツリウリトラ
百ノ賣物ニ千ノ買物有テ群集ス 又云町人ハ小屋ヲカケ諸国津々
浦々ノ名物ヲ持來リテ賣買ス市ヲナス 或ハ見世棚ヲカザヘ唐土高
麗ノ珍物京堺ノ絹布ヲウリノルモアリト云○ 商賣往來ニモ見世棚ノ名アリ
此往來ハ元禄以後ノ作ニ云 以上骨董集ノ文ヲ抄出ス 川書等甚多シ其ハ
一二ヲ略シテ其他略之

是前ニ云
來寄シ

右京師市店々画ヲ見ルニ其棟(屋)等詳カヲ知ラズト雖モ大略長三尺許幅
ニ三寸ノソギ板ヲ以テ葺タル様ト見ユ何レニモ板葺ハ顕然タリ 画ラハ京師ノモ
今世ノ如ク想フ 尤昔ノコトナリシハ中古以來ノ事ニテ 或ハ江戸ニ先ヌル様
或ハ一時様 或ハ後ハ様 大坂亦准之テ推スベシ
又屋上ニ石ヲ置ヲ見ルハ暴風ナ備ヘシ 今モ参州新井駅ナド専ラ板屋ノ上ニ
石ヲ置テ壓シトス 海濱故特ニ暴ニ備ヘタルナラン

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41
ガラス使用

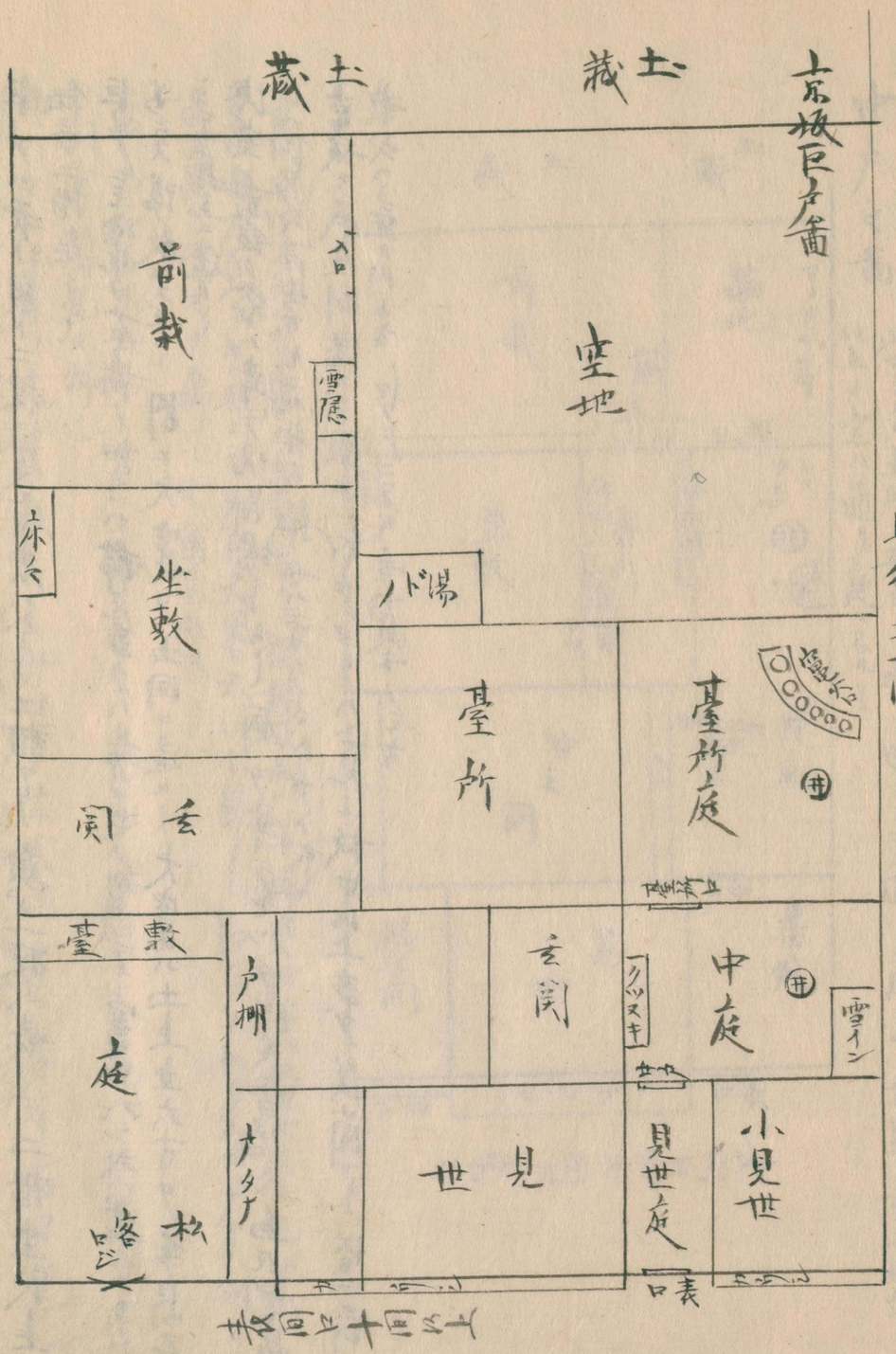
書ヲ天正年中迄ハ家ニ魯論ノ一部ヲ天文迄ハ無ナラバ障子如何樋魯ヲ終ヘ今世ハ如有而戸拉及掛鉄蕃樫々ノ訓アリ田家盗締ヲ九ヲ門以下拴掛鉄ノ如ク備ヘ魯ヲ者多キニ

京坂ハ六尺寺ヲ以テ一間トス是ヲ京間トス民屋ト雖モ皆用ユ畳ノ
准ヲ建具ハ皆悉ク幅ニ准ヲ
置長六尺二寸　幅三尺一寸　ヲ障子ヲ高サ

京坂ニモ皆有リ盖シ亜ニ京坂大日小異アリ京師ハ島畳ヲ普ヲ
事トシ本普ヲ称トス大坂ハ反ヲ之ヲ本普ヲ事トシ島畳ヲ称
トス或ハ棟ノ前ヲ本普ヲ前ヲ島畳ヲ称ス京師ニモアル称シ
本普ヲ下ハ平有ヲ並ベ悉ク畳ノ隈ヲ画ヲ後ヲ二有ヲ端ヲ畳ヲ
ハ縦横次ヲニ有ヲ端ヲ畳ヲ九有ヲ用ヒサルヲ又ハ広ク用ヒ
トスシ并有ヲ下ハ形異シ汎ク二ヲ是ヲサンガラ
又屋根際喰トキニ半ノ格目ヲ入ルモアリ或ハ屋端ノ
ミヲ多ク
棟ヲ大ニセズ又鬼瓦ハ今ヲ鬼面ヲ事トス
庇モ皆ヲ反ヲ有ヲ普シ是亦本普高畳前ニ准ス盖巨戸ニハ板普
ノ庇アルヲ有ヲ精美シ是ヲ甚ダ稀トセヲ
ニテ多クハ有庇シ又屋背ノ庇ニハ板庇ヲ事ト
ス称ニハ銅庇モアリ多クハタヽキ庇シ又小戸ハ杉ヲ板ニ
庇トスモアリ
タヽキ屋根ト云ハ長尺ヲ杉ノ薄キ板ヲ程ヲ
是ヲ次ヲニ累ネ本釘ヲ以テ之ヲ是ヲ普ニハ鉄ヲ以テ本釘ヲ
ソノ一葉ヲ故ニタヽキ屋ヲノ名アリ江戸ニテハ引ケラブ釘トス柿普ト

京坂市中板普ハ粗ヲ屋小屋ノ如ク

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用



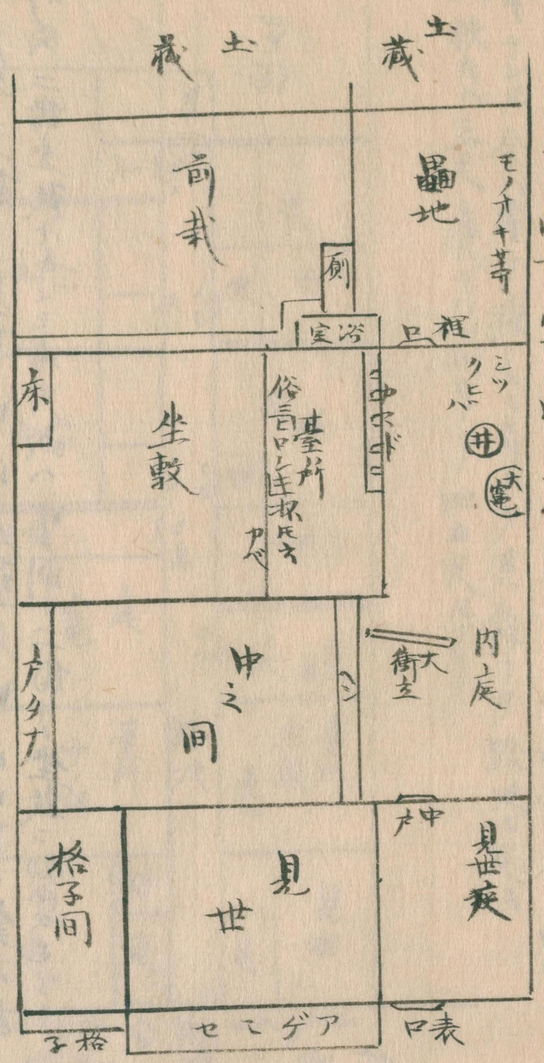
今世見普ノ下ハ先屋根板ヲ二重ニシ此上ニ土ヲ置テ而後ニ瓦ヲ葺ク一軒屋ニ門割シ百餘年前ノ割ニハ見下屋根板ヲ用ヒズ幅ス分リノ割竹ヲ簀ニ綯テ垂木ノ上ニ敷ク土ヲ置ニ凡ソ萱ヲ以テ葺ルモアリ余ガ大坂ノ家則此割シ幸ニ百有餘年火災ヲ免レシ家ヲ見ルニ表ノ屋根ト庇ノ間ハ垂木窓ヲモ全ク塗籠ニシ唯庇上ニハゞキ板ヲ顕ハシ庇下ヲ塗籠ニセザル家更ニ無シ又家宅ノ外面ハ勿下見板ヲ打ズ全壁ヲ顕シ而ノ為ニハ漆喰ヲ以テ塗ルヲ專トスル屋裡ト雖ドモ羽目板壁甚タ稀シ而ニズ壁ヲ堅固ヲ要トスル柱モ專ラ一間二柱シ又長大ノ材ヲ用ヒ間ヲ廣ク取ル家宅モ屋根ト庇ノ間ニ下ノ如リ桁ヲ用ヒ塗籠ニセザルハ板廻青欅貸食庵ノ類シ其他ハ專ラ塗ル又皆為ズ二階造ニシ下ニ中二階及ビ半屋等無ク裡長屋ニハ稀ニ平屋中二階モアル故

又下ノ中二階ノ宅ハ表庇上ニ窓ヲアルサルモアリ京坂ハ中二階ヲ設ケ皆為窓アリ唯本願寺掛所皆ニ桟甲冂ト云ル高窓ニシ無窓ニシ土人高ク云ク

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

上戸ハ表ト奥ト二棟ニ建ルニ表ハ全リ二階アリ奥ノ一棟ハ表ノ方二階坐敷上ハ
総テ二階無シ
上戸ニモ寵ノ右畨ノ如キハ稀ニ多クハ普通ノ製ニテ寵口八ツ或ハ十一ヶ所アリシ
ヨウズ陽数ニスルナリ大寵ハ土上五六寸ヨリ手島石ニ
テ其上ニ造ルナリ
浴室ハ高坂ノ俗ハ専ラ風呂場トイヒ厠ヲ東ヲセッチンニ雪隠ト云ヒ西ヲ
ハ「テヲロバ」ト云ヒ又ハ非ズ婦女ハ専ラ「ツマリカト」ト云ヒ
高坂モ民屋ハ別ニ建ズ雑屋ニ「ヲロバ」ヨリハ寛ニ故中位ノ墓ノ内ト云
製式ハ上ノ唯ノ庭ト同ジ

中戸之畨　此ヅト土間ノ表ヨリ背ニ達スル
以上ノ宅ハ通リ庭ニスルヲ通リ庭トハ大暑表二間半



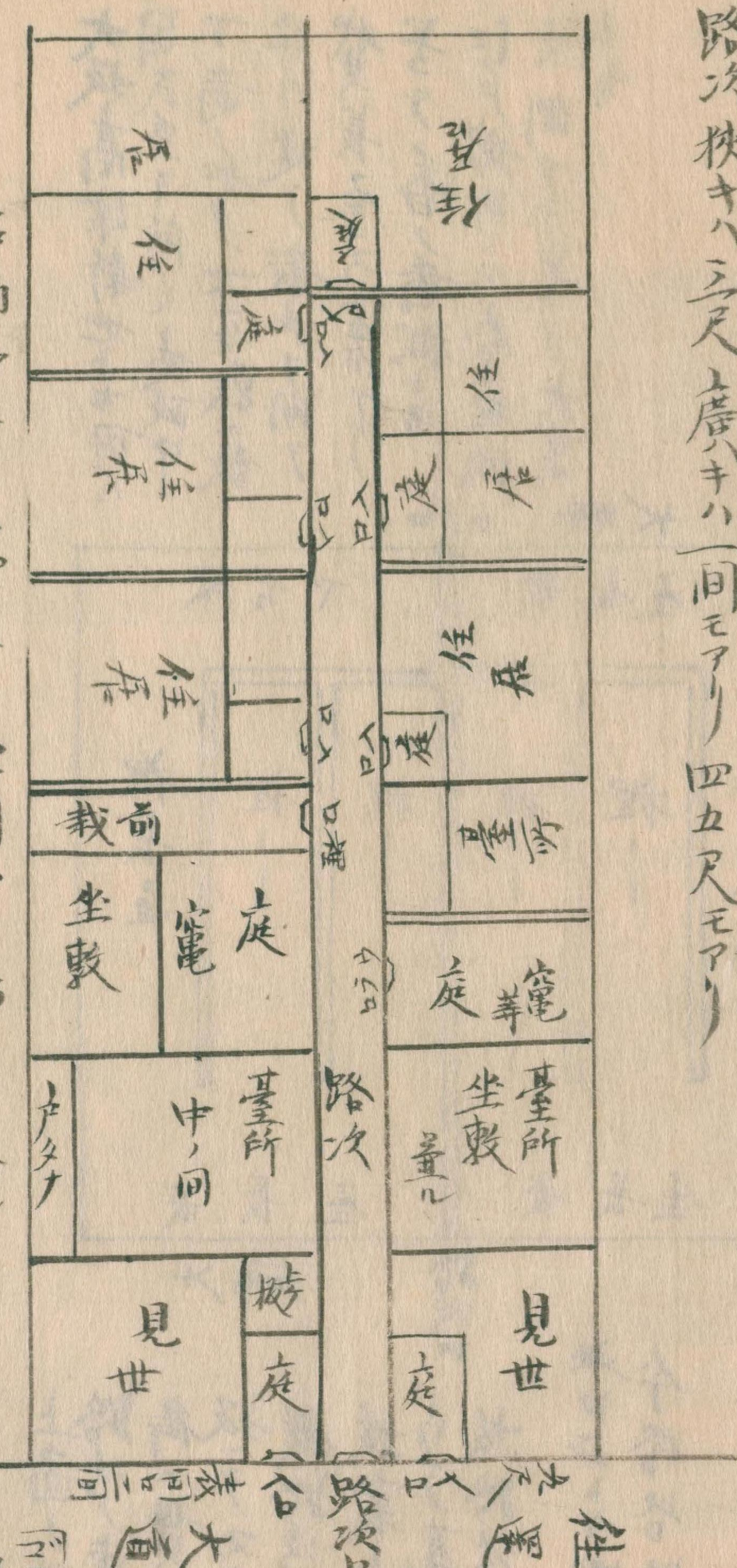
表間口四五間アル店ハ生業ニヨリ惣格子或ハ半揚見世半ハ格子ニスルヲ
ノ畨毎ノ如ト云ニ非ズト雖モ大暑大ヒ小異アリ
甚ダ異ハニスルモノ稀シ又無ニモ非ス
寵ハ如ヅ口ヲ土場ノ方ニ床ヲ背ニ又大中ノ寵ハ別ニ大寵一二ヲ築リシ寵
ニ斜ニ壺ノ割目ヲ彫シ
井ハ中以上ニテハ毎戸ニ設ケシ井辺ヲ漆喰場トイヒ又ハ石ヲ畳ミテアリ下戸ハ如ク板ヲハリテ更ニ無シ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

内庭ハ常ノ土間也 見世庭ハ生業ニヨリ タヽキ漆クヒ或ハ板ヲハル也
酒醤等ノ店其他モ業ニヨリ見世全クヲ土間ニスルモアリ
中以下四五間表以上ノ宅ノ内庭ニハ専ラ板製ノ大衝立ヲ置キ厨ノ表ヨリ
見透ザルヲ要セリ
大中戸ニハ小坐敷 離坐敷 茶湯ノ数寄屋等 其便ニ應シ一定ナラズ 又
有無モ一定ナラズ 又雑物ヲ納ル所ヲ上方ニテナヤト云 納屋也 江戸
ニテハ物置ト云 是亦中以上必ラズ有之
中戸以下ハ一棟ニテ見世ト中ノ間ハ二階アリ 中ノ間以北ハ多クハ屋根ニテ無二階也 然氏
稀ニハ二階坐敷ナキモ非ズ 或ハ中ノ間ノ二階ヨリ坐敷ニ到ルモアリ

小戸之図

表間口二間以下ノ宅ハ通リ庭ニ作ラズ 二間口ハ稀ニ通庭ニスルモアリ 九尺以下更ニ無之 然ニ九尺ト云ハ京間一間半ノ略也 其実九尺七寸五分
又ベキナレ氏今ハ專ラ減ズル者多ク 其ハ餘リヲ路次ニ足ス
路次狭キハ三尺 廣キハ一間モアリ 四五尺モアリ

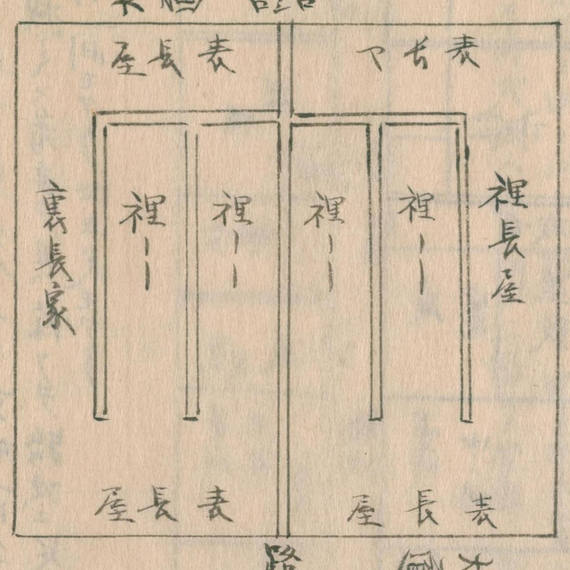


右番ノ中一戸ヲ除テ井戸 総厠 ゴモク場ヲ制スベシ
ゴモクバ 江戸ニテ ゴミタメト云

右ノ番一ト屋敷ト称ヘ一地面也 此数戸ヲ長屋ト云也 今茲ニ表借屋唯二戸ヲ
番ス ハ略ス 一宇数戸ノモノ多シ 又裡借屋ハ別宇ナレ氏 凡テ一宇ヲ一長屋ト云也
又小戸ト雖氏自地自宅アリ 中戸ニモ借宅アリ 又土蔵一二ニテヲ附ニテ借宅
トスルモアリ 更ニ一定ナシト雖氏其ハ専ラナルヲ番ス 土蔵附ノ借宅モ甚タ
多シ 江戸ニハ甚タ稀トス

大屋敷ト称シ表間口表キ地ハ表長屋ヲ奥行モ浅クシテ深ノ是ニ土蔵ヲ一戸ヅヽモ有シ二十間ノ屋敷ナラハ裡長屋ヲモ横ニ列シ建シ又不繁昌ノ所ヲ広キ宅ニ住人多クシテ深ノ奥ヘ裡長屋数宇ヲ建ルモアリ表ハ奥行十間餘ニモ十九間ニモ

大坂高津新地ト云所ハ国民多キ所ニ文政中下画ノ如ク一屋敷ニ数宇ヲ建テ数戸ヲ用テ貸長屋ニスル者アリ号テ香ノ香裡ト云江戸堺町ニモ今世似タル割アリ号テ大裏ト云



上画ノマヽトリ中央ノ路次ノ東西ニ貫キタル一条ノ大坂ニテハ裏トヨリ江戸ニテハ抜裏トヨリ直ニ表ニ抜ル路次ヲ抜路次ト称シ

北口ノ下ニ四字露路次今俗皆路次ノ字ヲ用フ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

京坂
巨戸
豪民
家宅
之画

屋根本葺
庇板葺
巨戸往々
用ふ

塀外番小屋
巨戸ニハ別ニ
戸辺ニ置キ
門戸ヲ守ラシム
夜ハ挑灯ヲ掛ケ
兼テ捨児ヲ防ク
毎坊ニ塀外番
一所アリ巨戸ハ
別ニ置ク

溝ハ皆ナ屋下ニ下水
ヲ設ケ雨辺石ヲ以テ
蔽ヒ面ニ竪板ヲ設ケ

トユ
垂木等
専ラ黒ク
塗ル

見越ノ松
巨戸ニハ
専ラ
植ヘラル

古敷板

客門

貯水俗ニ用水
トモ

大ク見ユ

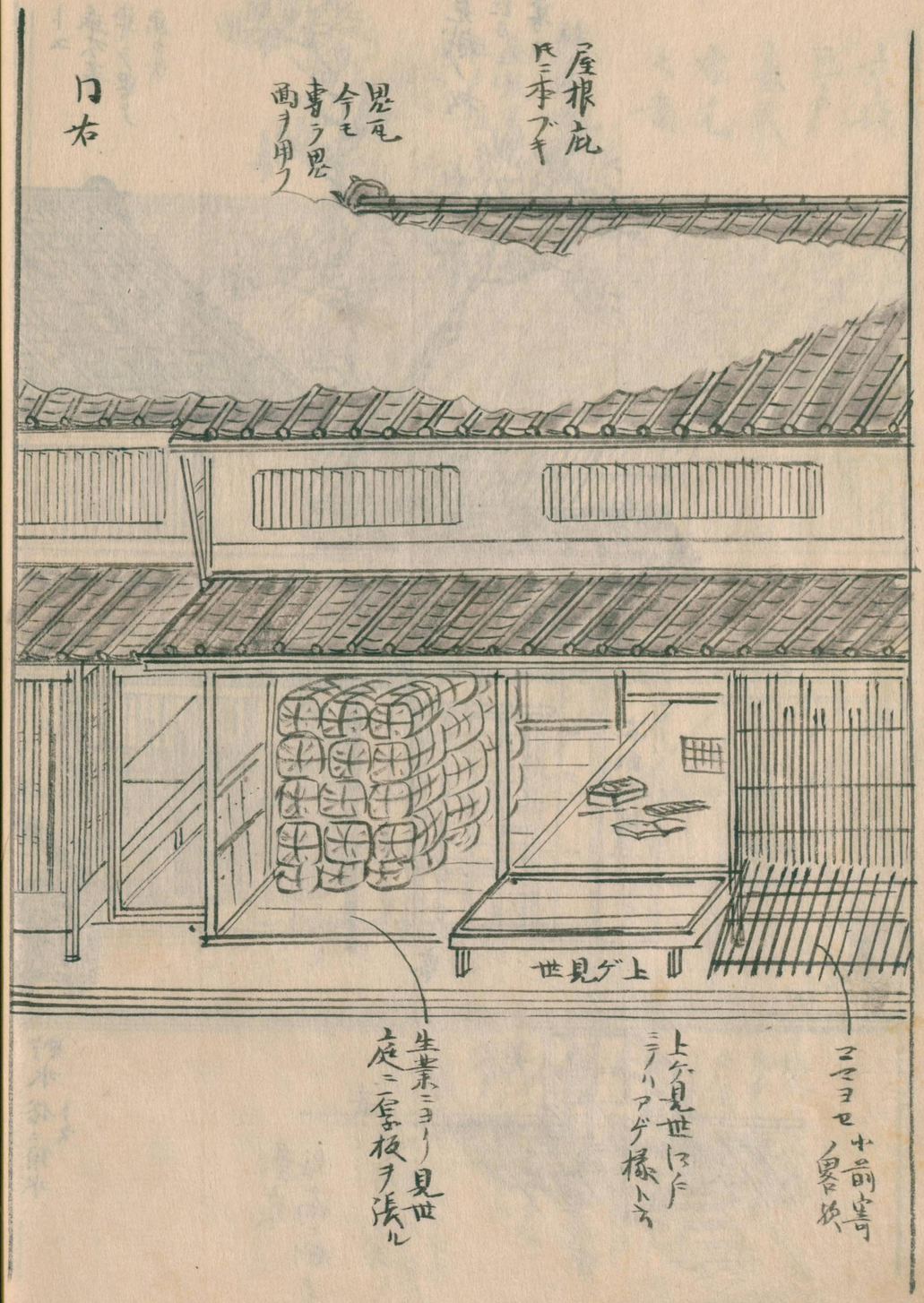
表

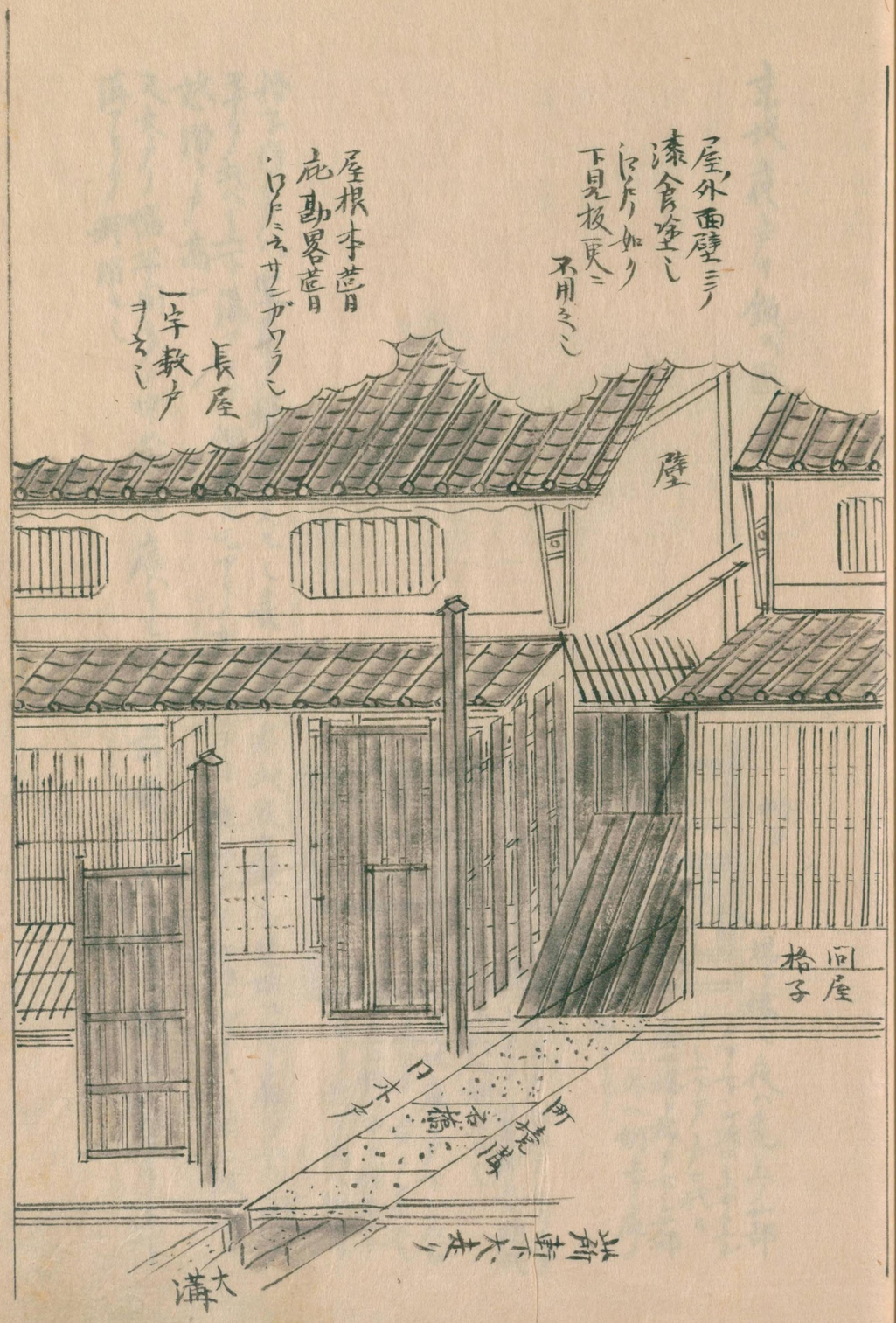
對泉
俗ニ向ヒ側ト
モ

背

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用

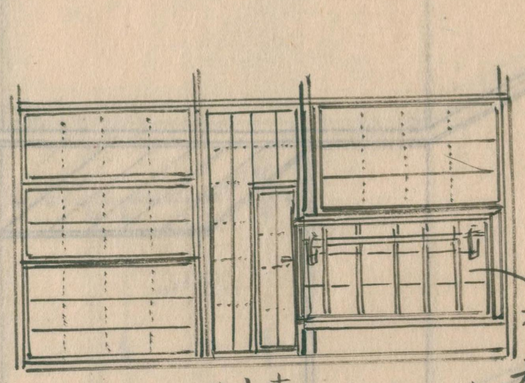




国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

京坂夜戸鎖之画



格子

揚ケ縁ノ夜ハ先上ノ部ノ戸ヲ下ニ次ニ上ケヲコヲ上ゲテ戸ニ代ル昼ハ揚ケ縁ヲ下ス部ノ戸ハ外ヘ別上ケ庇ノ裡ニアリ

表大戸如此ニハセリ上ケ下ロヲニノ竪押上ル様式ハ内ヘ別上ルシ

見世庭ノ戸下ハ左右溝アリ上ヨリノ差入ル上ニ牧ハ中ニ幅番ノ外ケ折ノ内ハ別上ル

格子内ノ戸ハ竪戸ニテ操出シニスクシ表大戸右ニ左ニ壁ヲ見世ハ片扉ノ如ク開リモアリ或ハ上下溝アリテ押開ルモアリ其便ヨリ故溜リ戸高シ

又大戸ノ幅半間ヨリ中ハ下ニハ廣キモアリ前番屋ノ如キハ幅五尺ハカリ上下溝アリテ押開ルシ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用

京坂土蔵画

大小アリト雖モ其製如此シ

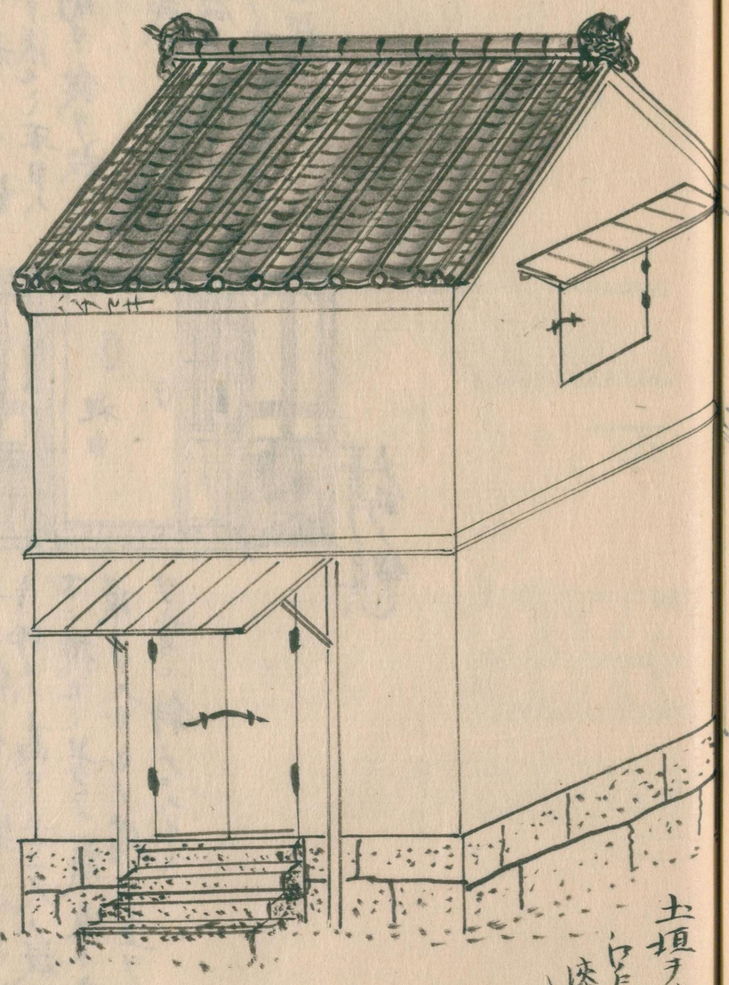
屋根ハ必ズ本葺

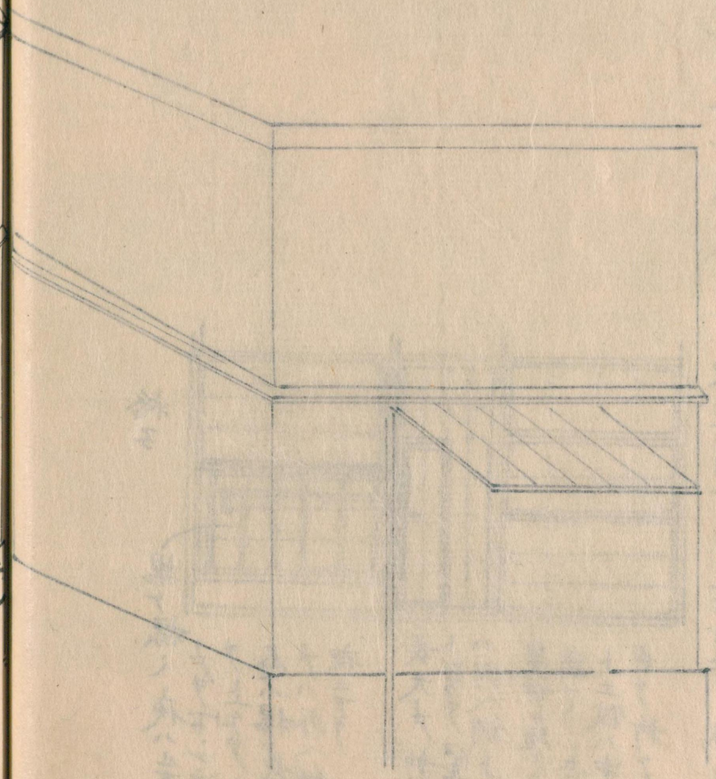
黒瓦ニ白面ヲ用ヒ

銅巻板ノ

折釘ヲ打ズ

窓片扉

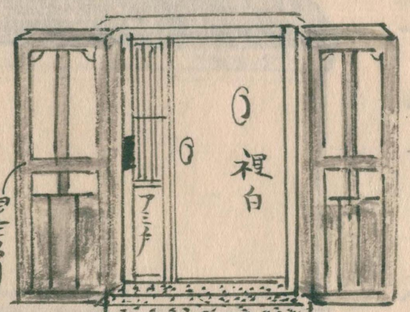




国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用

高坂ノ土蔵ハ昔ゟ云ヘ本普請ニ仕立有之候ニ付
箱棟等更ニ無之候ニ付窓片扉ニ石垣ヲ塗籠ニ仕
戸前ニハ引戸ニ仕候ニ付ゟ云ヘ両扉高ニ用ヒアルモノニハ扉ニ板伸ヲヤ
クルシ ゟ云ヘ墨汲ミリニ又
戸前ノ裡ニ裡白ゴウラ等ヲ塗籠ノ引戸ヲ
前ト二重ニシ各々目ヌリヲゟんし
又ウラ白ト引満ニ格子ヲヲ
格子裡ニハ銅網ヲ張ルシ平日ハ
此網ヲヲ鎖ヲ以テ錠ヲ鎖ルシ



又高坂多ノハ土蔵ト家宅ト
多ノ隔リ壁ヲ接スルヲノ
棟シ又宅裡ヨリ直ニ倉ロニ
出入スルノ御特ニ棟シ

裡ヌリ
戸前ノ錠ハ

平日網戸ヲモ塞ガサル出入
キ物ニハ高サ二尺八ノ板ヲノ
下ニ横ルシ男テ嵐返トス倉中
嵐ヲ入ガルノ備ヘ上ヲ前ニ下
ヲ背ニ斜メニスルシ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

大坂濱藏之圖

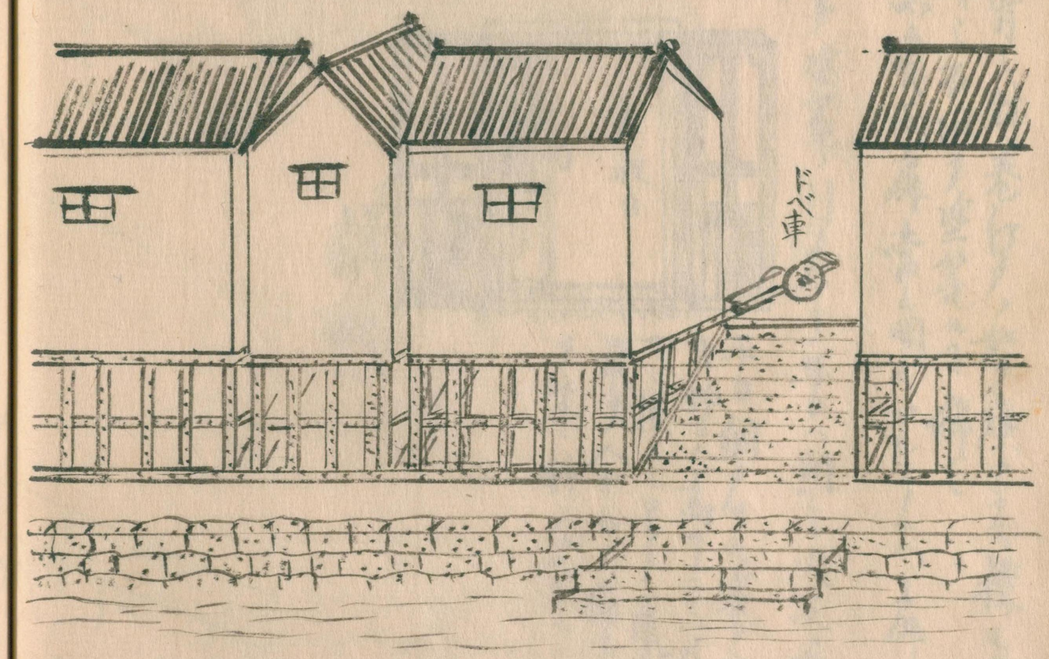
吉坂ノ俗ハ川岸ヲモ濱トヨシ故ニ河岸土藏ヲハマグラトヨヘリ濱藏ノ列江戸ニ及テ平ヲ專ラニ屋根ノ妻ヲ葺トス

大坂諸川陸リハ甚タ狹ク故ニ畫ノ如ク土藏下ヲ石柱ヲ建石土臺ヲ居ヘ其上ニ土藏ヲ建ンシ此土藏下ニ住ム非人アリ所謂納屋下ノ非人ナリ

土藏ノ間ニ描ク河ニ下ル路ヲ坂俗ハ雁木トヨヘリ

雁木カヽギ

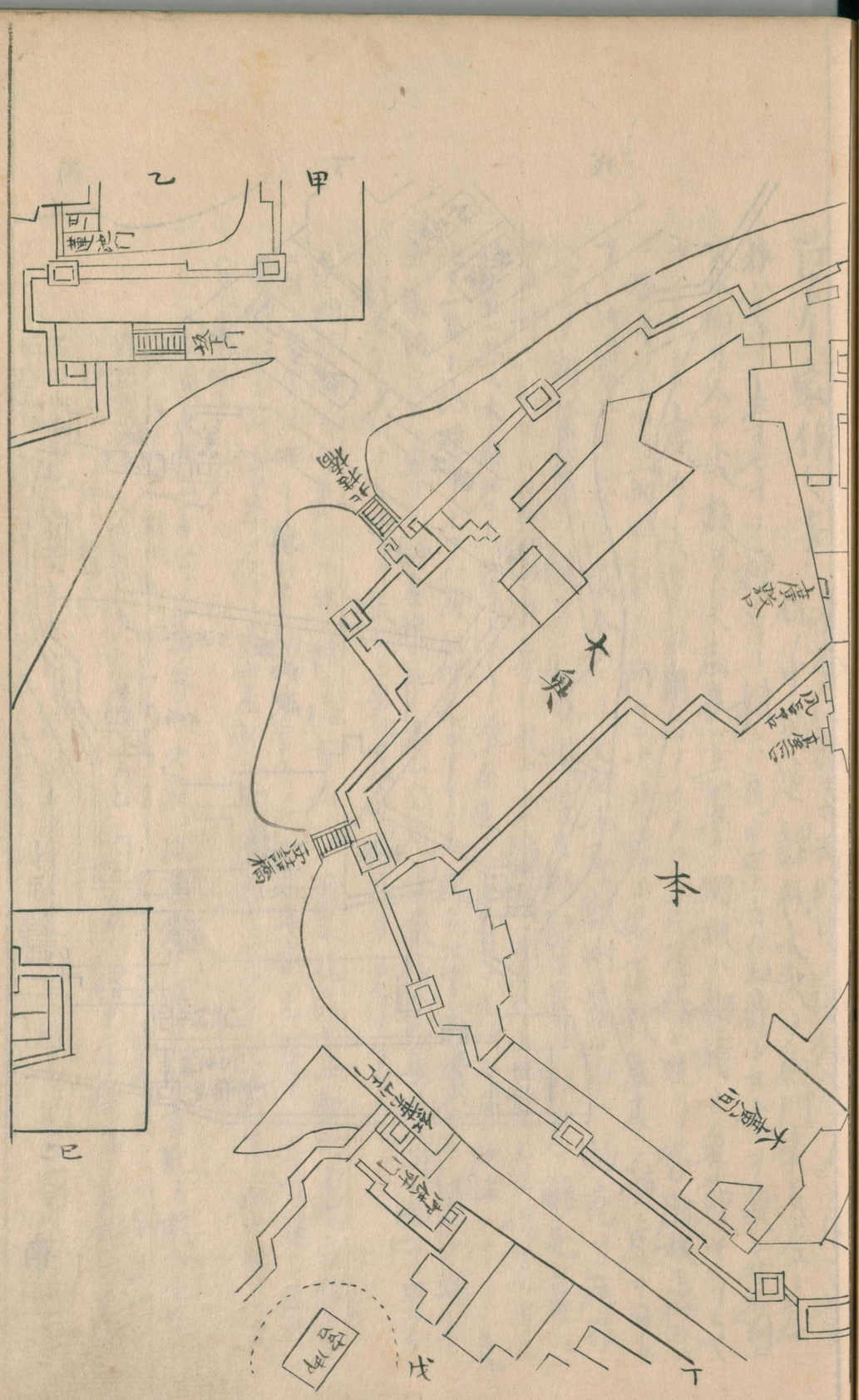
納屋下ナヤシタ訓ス

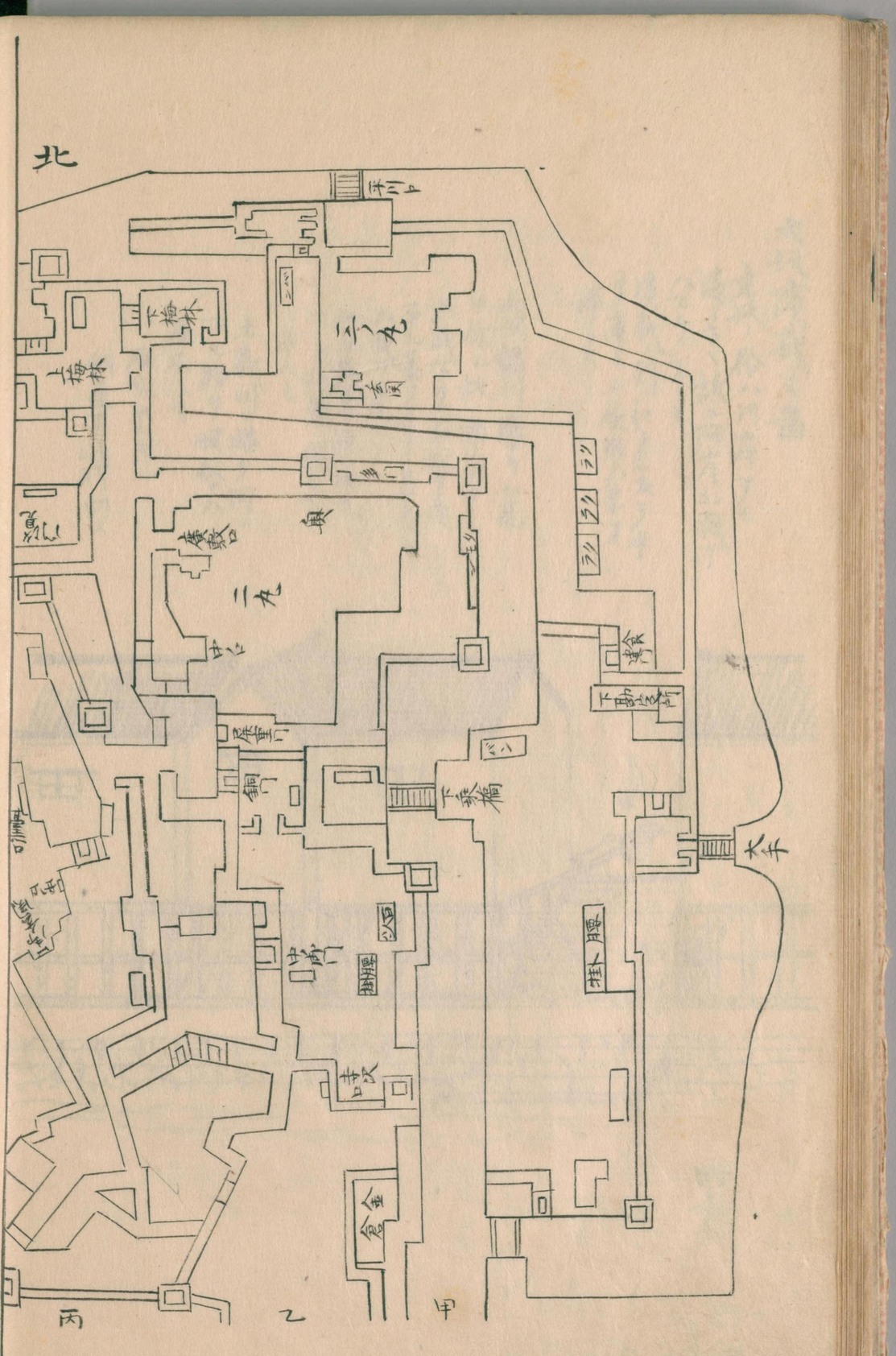


略畫

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41
ガラス使用

江戸ノ家作之事

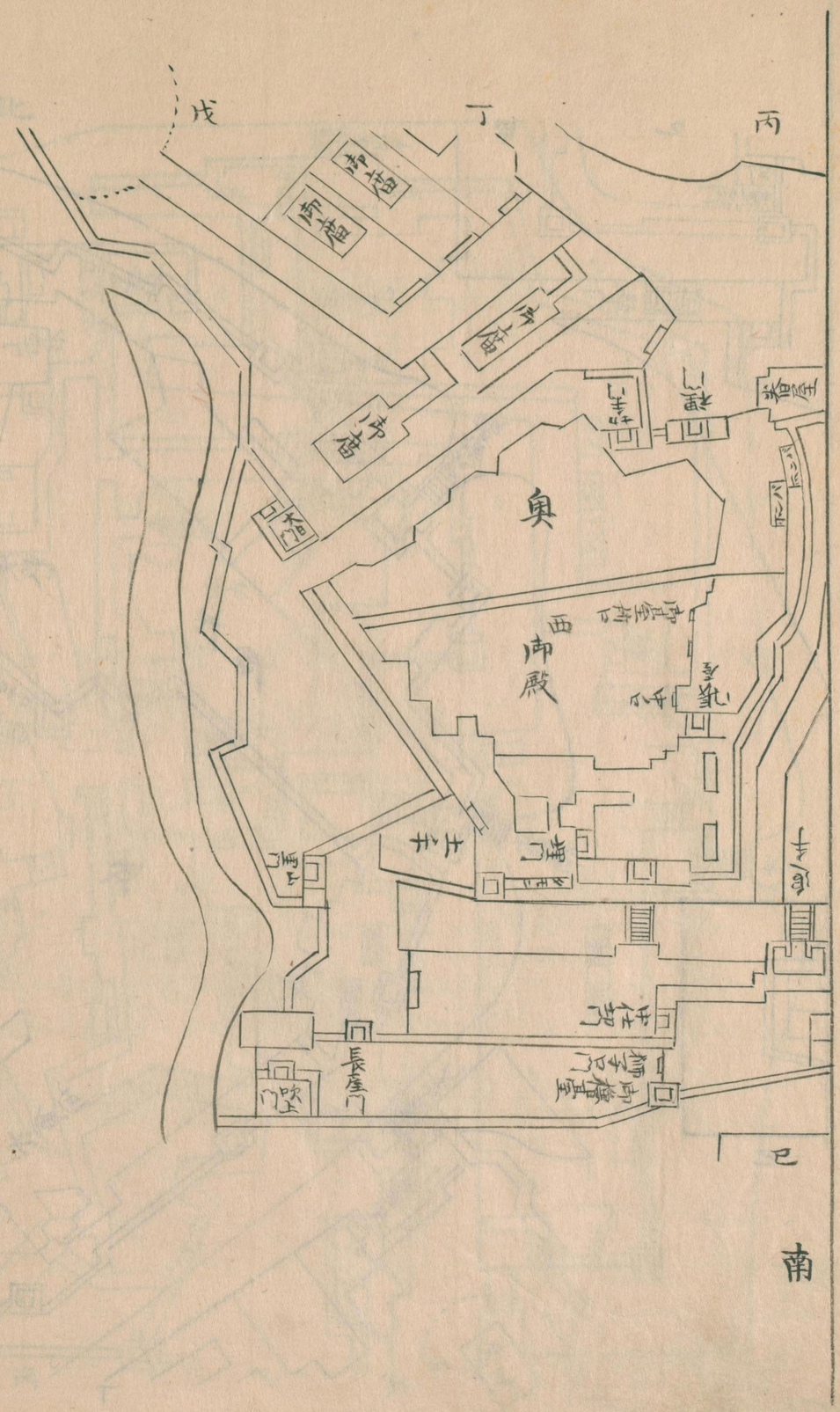
衣食住説ト云天明中六十餘歳ノ人ノ作シ享保ノ中頃ト迄諸侯大夫ノ殿門表長屋ノ屋根ハ葺サス五寸ノ柿葺ニ揃ニハ月ヲ置キ烏飛ト云ホヨリ優シ井筒天水桶ヲメレ火敵ヨリ又屋根ニ上置ノ腰板ハ柵櫓ノ魯節キラビヤカナリシニ一度々々大災故用心ノタメニト瓦屋根ニ造リ替レリトカヤ二日ト戸町々ニ火見櫓出来屋敷長屋ノ壁ニ瓦ヲ用ルコトモ此時ヨリナルベシ衣食ノ一ツ又日ヘアゲ軒ニ見雷ヲ板ニテ打ツ又昔ヲ物語ニ昔ハ江戸ニ畷売葺ハ四五軒ナラテハ見ヘズ近年ハ大カタ畷葺トカヤ日書ニ尚ヲ火ノ用心ニ瓦葺トリ塗屋造リニ替レリ云々又昔物語トカヤノ文化十一年ノ記時年七十八歳小川某トアリ武家町屋民ニ多クハ畷屋根ニテ有ニシノ割木ヲノミニシ夫ヨリ板ニテ葺其上ニ畷売ヲニキナラベルシ

居徳集考ニ古老ノ話本中ノ話ニ福舎ノ松平ノ本家筑前守西番町ノ居宅柿葺ニ致シ候トテ見物イタシ候ト誠ニ近年ノ事ニテ類焼セザル所ハ古来ノ侭ノ武士屋敷ハ皆瓦葺ニアリシト若年昔能ク覚ヘル事也ト

守貞、天保二年始テ中山道ヨリ出府ノ節ナルナル遊女屋ノヤウナキ珍シキ事ニ思ヒシカ近年見ル人ハ皆当前ニ思ヒ又昔ノ事ヲ精製シ信ヲ二十餘年ニテ斯モ変化ニ移レルモノ称ト為ン

石川氏筆記ニ天正年中迄ハ家ニ雨戸ナク天文迄ハ木綿ナシト云ヘル雨戸ヲ二重ニモスルハアルベシ

今ハ四畳ト云ヘル



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

江戸民家　慶長以前皆草葺シ用ユ
金ノ焼セス且葺草貴シ
以後板葺ト云時ニ事町二百ニ滝山治兵衛トイヘルモノアリ他ニ抽ンテ
棟ノ前ヲ見ハ背ヲ板葺ト云ヒシ者ニテ
移シ民家ヲ造ラシム
日八年海内ヲ従ヘテ神田山ヲ崩シ城築ノ海ヲ埋テ凡方三十町ヲ
造リ又市井ニ川ヲ堀リ諸国ヨリ集リ来ル市民ニ宅地ヲ請
ニ許ス川ヲ堀名ケ餘土ヲ俗ト各自ニ地ヲ造リ始テ家作ヲ
結テ後漸ク家作ヲシ
明暦二年大火アリテ後　庁命ヲ以テ江戸市民ノ家ニ瓦葺ヲ禁
セラルヽヨリ当年ニ至リ凡五十七
年ヲ経シ正保二年中秀ニ八寺島某ニ人瓦ヲ製スル
慶長六ヨリ当年ニ至リ凡五十七
年ヲ経シ正保二年中秀ニ八寺島某ニ人瓦ヲ製スル
慶長中川村瀬見ナル者南新堀ニ窯ヲ築キ瓦ヲ
見地理ニ秀テ屋ヲ葺ク功アリ因テ許シ
サレタリ
寛保中ニ至リ江戸市中民屋ニ瓦葺ヲ許免アリテ今ニ至ルマデ江戸
瓦葺ヲ許スヨリシテ百二三十年前ノコト
慶長六年草葺ヲ禁シ板葺ヲ両国橋東ニ移シ元禄ニ至リ
各ニ大火後芽場町ノ茅屋ヲ改ム故ニ本所四ツ目ニ移シ
再ヒ本所四ツ目ニ移ス故ニ本所茅場町ノ茅葺ヲ
長後ニモ猶中々ヅキアリテ元禄ニモ猶有ラシトナリ

追テ陸尺ノ駕ヲ昇ク者ノコト
防ク是亦ノ論セズ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

海賊橋東及七本竹氏ニ今モ齊保卿ノ名ヲ存セリ又城筆見所外ニ茅町ヨリ氏ニ茅ノ貫ヲ通リ又城西ノ番町鞘町 元山王小川町 駿河臺迄 飯田町等ノ民居ワラブキヲ禁ス 其地ニ享保十二年四月ヨリ瓦葺ノ禁術リニ他ニテ葦葺ヲ禁ス

蛎ガラヤ
月役

慶長中草ブキヲ禁ニ板葺トスルモノハ 帳殿座根トスルモノナルベシ昔ハ今ノ小舞貫ナリ月役トハ年ニ用ル雇賃ヲ其所多ニヨリ割ヌヲ造ル長六尺八幅一寸四方ホドニ足トナシ其上ヲ板葺トスルヲ一坪ト定メ今ヲ盛トセシ月役ハ八月役ヲ以テ言ヘリ右ノ蛎売屋根宝暦中迄江戸端町ニハ事ヲ有シトゾ

子天保六年木曽路ヨリ出火セシ時板橋駅娼家皆茅葺ニ葺キ板ヲ稀ニ葺ケリ 近年頼サニ泉居都テ壮麗 茅屋更ニ葺キ板ヲ稀ニ葺ケリ 娼家ハ 蓋娼ヲ飯売女ニ編ル故ニ名ハ娼家ヲ古キ狂句ニ本郷ヲ蓋由迄ハ江戸内ヲ云ヒシ故ニ名ハ娼家ヲ今ヲ右ノ娼婦ハ本ノ宿内ノ次キ本ノ宿内ヲ云ヒシ故ニ名ハ娼家ヲ湯島六丁目ノ向迄ヲ云ヒシ故ニ名ハ娼家ヲ湯島ヨリ近ク迄ヲ云ヒシ故ニ名ハ娼家ヲ板橋駅ヲ云ヒシ故ニ名ハ娼家ヲ

場末
陋巷ト訓ス

今世江戸民屋ノ制 或ハ二階家或ハ中二階ト号テ無二階ノ俗ヲ宅 或ハ瓦葺 或ハ柿葺 或ハ茅葺 又茅葺ヲ禁止ノ古制 前ニ云ガ如ク特ニ町ヲ壮麗ヲ東トスルヲ以テ市中ヲ江戸市街ハ路上ニ木戸 自然番所 番小屋 髪結 新店 高低アリテ自ラ一覧 紛々タリ 京坂路上ニ出ル木戸ノ如シ況ヤ府内ヲヤ

瓦葺ハ皆為ス 卅ニカ口ヒシ京坂ニテ勘署昔シ土蔵ニ本葺アリ 又板葺多ク屋根板ヲ号テ長尺ハカリ幅不同ノ杉ノ麁材板ヲ重ネテ木釘ヲ以テ打ツケル 是ヲ江戸地世火災屋ナル上ニ繁昌ノ街ニハ貸店稀ニテ加ヲ火後貸店ハ速ニ造ラズ待ク間休業ノ難ノ又居商自費ヲ以テ假居ヲ造リ後日改造ヲ計ル故ニ成ラズ費不ラ善ニテ板屋ヲノ平屋等ヲ造リ番ニ土蔵ニ又二階造ノ宅モ庇上ヲ塗籠ズ皆為ス格子ヲ無ク宅ニ入レモ天保来ノ府命ニ以後火災アリテ当時用ヲ二ノ諸所ニ瓦葺皆為ラズ用ヒ塗屋ニ造ルベキ官命アリテ庇上ヲ塗籠ルモアリシガ今ハ廃テ新造ノ宅屋外面ノ塗籠ヲ土蔵制ニ又従来塗家ト号ケ或ハ大壁ト称ベテ屋外ニ有ル土蔵造リヨリ壁厚シ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

又土蔵造り及ビ塗家ニ非ルモノヲ皆ヲ焼キ家トシ火災ニハ如何ニ焼失ス故ニ土蔵ニハ此名目無シ
焼家ノ外面ハ壁表ヘ下見板トシテ白ク塗リ又箱棟ニ非ルモ土蔵ヨリ大シ
焼家土蔵ニ棟ヲ大ニスル事ヲ箱棟トシ土蔵庇ニハ箱棟多シ
瓦棟ノ端ニ鬼板トシテ用ル事ハ此所ニ起ル事ニテ名ノミ鬼板トシテ今世ハ庵ヲ名ノミ鬼板トシ此所ニ起ル事ヲ用ル
又庇ノ中高表庇上ト庇下ハ二尺ヲ出ス火災ノ時数人屋上ニ上リテ倒サルノ備ヘシ高板ハ表柱ヨリ庇上下ニテ直立シ庇ニテ是ヲ大板建トシテ官禁トス此ヲ用ル事多シ
右ノ如ク庇下ニ二尺前ニ出ル故ニ大走リ庇トモ云ル事アリ
庇ハ屋内ニ故ニ車ヲ引入ル事ヲ得ル故ニ又生業ヲ営ム事多シ
又雨露ヲ除ケ備ヘニ張庇ノ下ニ板庇ヲ付ルモアリ庇ニ二重ニモシ張庇ノ上ニ在ルモアリ
又物干トテ洗衣等ヲ日ニ晒ス事ニ都テ東ヲ宅皆ノ座ニ造ル
戸其便ヨリテ高板ニハ無シ
又土手表腰手トモ制ニ非ル土手多シ宅表ヲ附ル事ニ造ルモアリ

印戸土蔵ハ二尺許也本普モ往々有リ又棒漆喰ト号シテ本普ノ如ク平瓦ヲ無ベ竪ノ目ニ竿ノ如ク漆喰ヲ塗リ製シテ丸瓦ニ代ルシ此棒ニクヒ高板ニ折無シ又サシ瓦普ニテリ多クハ屋根二條ハ皆ヲ丸瓦ヲ用ルニシ屋端ニ屋端瓦ノ耳ヲ漆喰ヨリニスル号ニテ引ラビトシ家宅ニハ刻ルキ形トシ此ヲ引ラハノ上ニ鬼板ノ前ニ小丸ヲ造リ家ノ吉凶吉凶ヲ描リシ棟ニハ鬼板ヲ大ニスルシ箱棟ニハ鬼板ヲ大ニスルシ
忘ハ事ヲ両扉シ号ヲ観音開キトシ錠巻ヲ庚ニ事ヲ尺餘アリ又形ノモ高板ト同ジ
ト異ルモ無シ錠巻ヲ庚ニ事ヲ尺餘アリ又形ノモ高板ト同ジ
石垣表ハ漆喰塗ニスルシ号ヲ腰巻トシ石ヨリハ高キ物ハ上ハ尺餘アリ石ノ高ケニハ把ラザルシ
両押家宅ニ掘ス土蔵ハ家宅ノ座形ニ庇皆ナ不四面所々ニ折釘ヲ設リ屋ヲ纏キ或ハ下見板ヲ掛ケ或ハ檜葺ノ時據ケテ足代ヲ造ル備モ

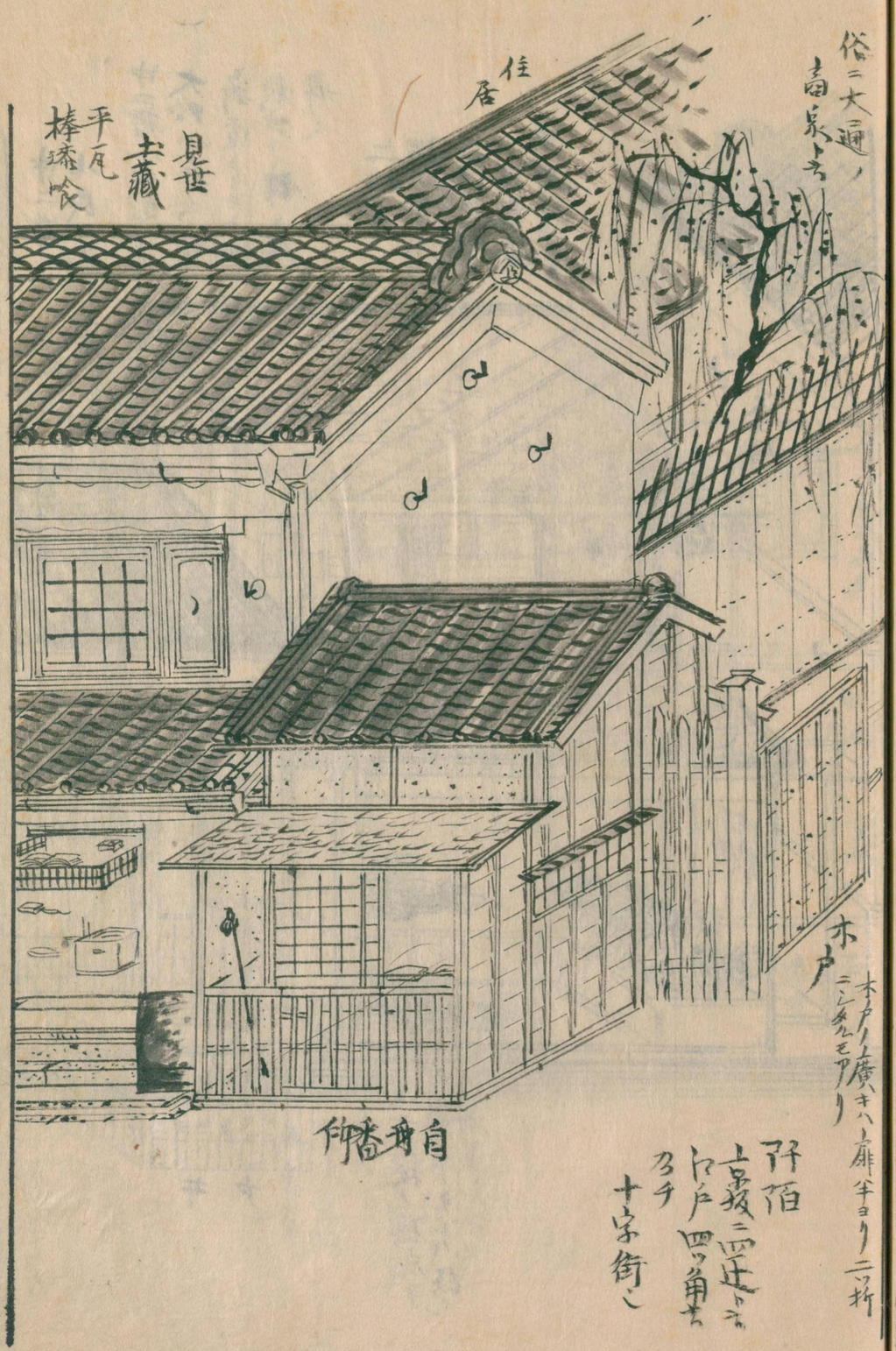
見世蔵トモテノ市廛ヲ土蔵割ニスル者日前シ蓋ノ前ヲ背ニ用キ表ハ全リヲ用キ或ハ戸納ヲ銭ヒヲ其餘ヲ利用ス
窓ヲ土戸幅各一尺五六寸或ハ二尺数ケヲ無ヘ塞リ平日ハ戸廛ニ納メ或ハ便ヲ計ニ置モ
又庇上多クハ観音開ノ窓ニテヲ用リシ格ヲ木格子ニスルモアリ二階ヲ座敷ヲ造リ土蔵ヲ除キ中間廛ノ日リ土戸数ケヲ無ヘ塞リ

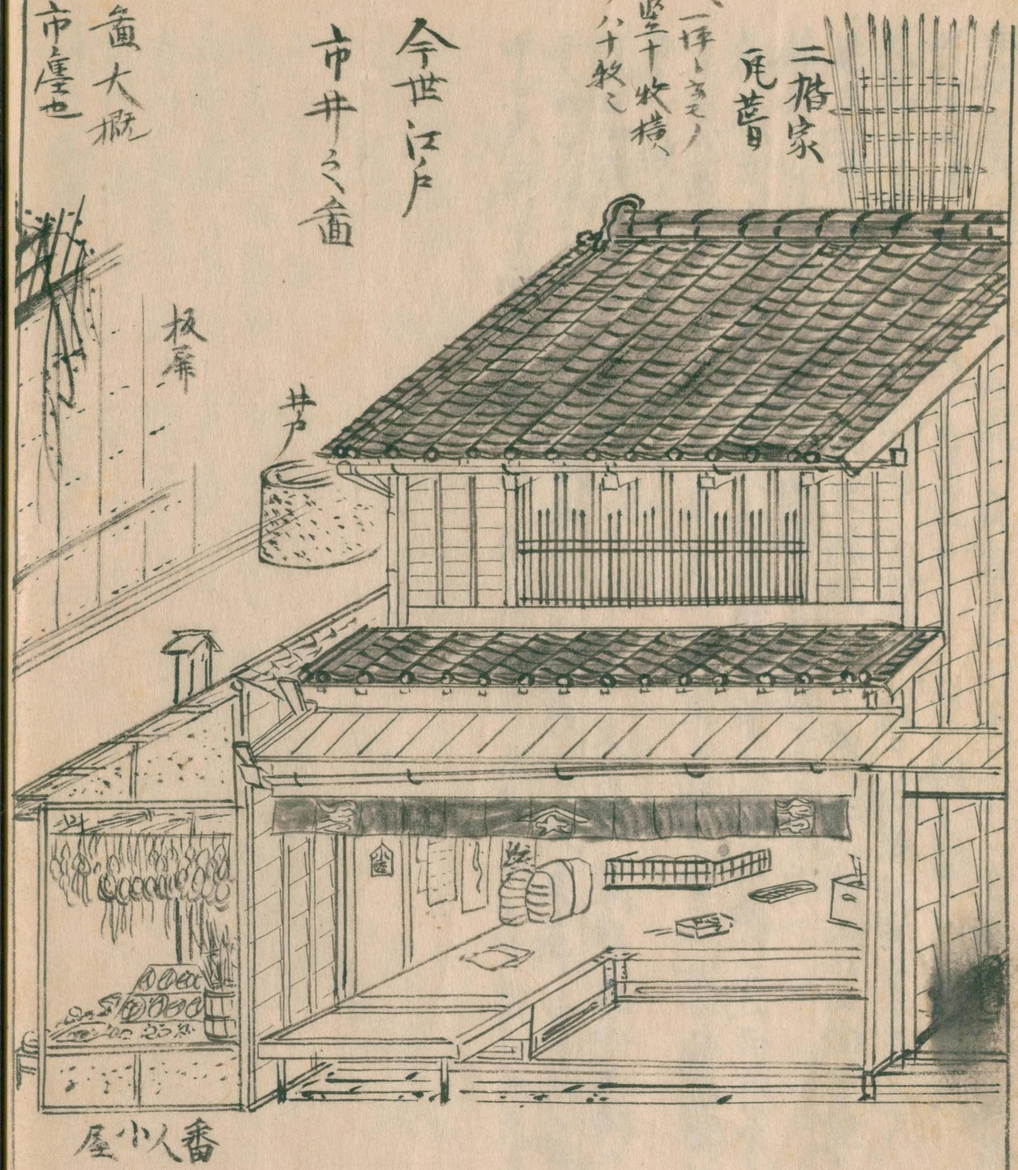
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

見世土蔵瓦庇アリ瓦庇ハ庇裏ヨリ土塗ニスルシ又庇深キハ庇端ニ柱ヲ建テ
世柱モ土塗ニス表ニ板ヲ以テ包ミ色ヲ塗リ或ハ銅ヲ以テ包ミ
又瓦庇ヲ造ラズ板庇ノ制ヲアリ或ハ瓦庇ニ拵庇ヲ板ニスルヲアリ
見世土蔵ハ表外面ヨリ見ル黒漆喰ミノシ或ハ二三面或ハ四面共ニ黒ニスルヲアリ又
精製ノモノハ黒漆ノ如ク光澤アリ粗ナルハ光ナシ
荷蔵文庫川岸土蔵ハ白漆喰ヲ専ラ用ヒ或ハ二三面或ハ全ク黒ニスルヲ
リ或ハ亂色ニスルヲアリ亂色ハ淡黒シ世白壁ニセザル所謂共故ハ居ニ對シ
日光ニ映ス著眼ヲ射ルヨリ然ルモノナシ
見世土蔵ハ店ヲ土裁割ニスルヲ上ニシテ文庫ハ家財雑物ヲ納ムルヲ荷蔵ハ
貴物ヲ納ムヲ文庫ヲ以テ家居ニ接シ宅
中ニアル前ヲ明ケ文庫ヲ以テ庫蔵ニ入ル

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用





阡陌
左右ニ四通ヨリ
ア戸四角ヲ
ナス
十字街ト

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

中二階小民宅

中二階小民宅ノ大略ノ小戸之面
新道トセシノ処
煎ジ薬ノ鍋庵
舞ヒ

二階屋
柿葺日竹ノスノコブチ
業流在
八百屋ニ支
表物モアリ

文庫

井戸

此二戸板ノ孫庇ヨリ
裏ヘカケテ小路

土蔵ノ
二階ニ
板庫構

平家
此良也
訓ハ
柿葺月

窓両扉ニ

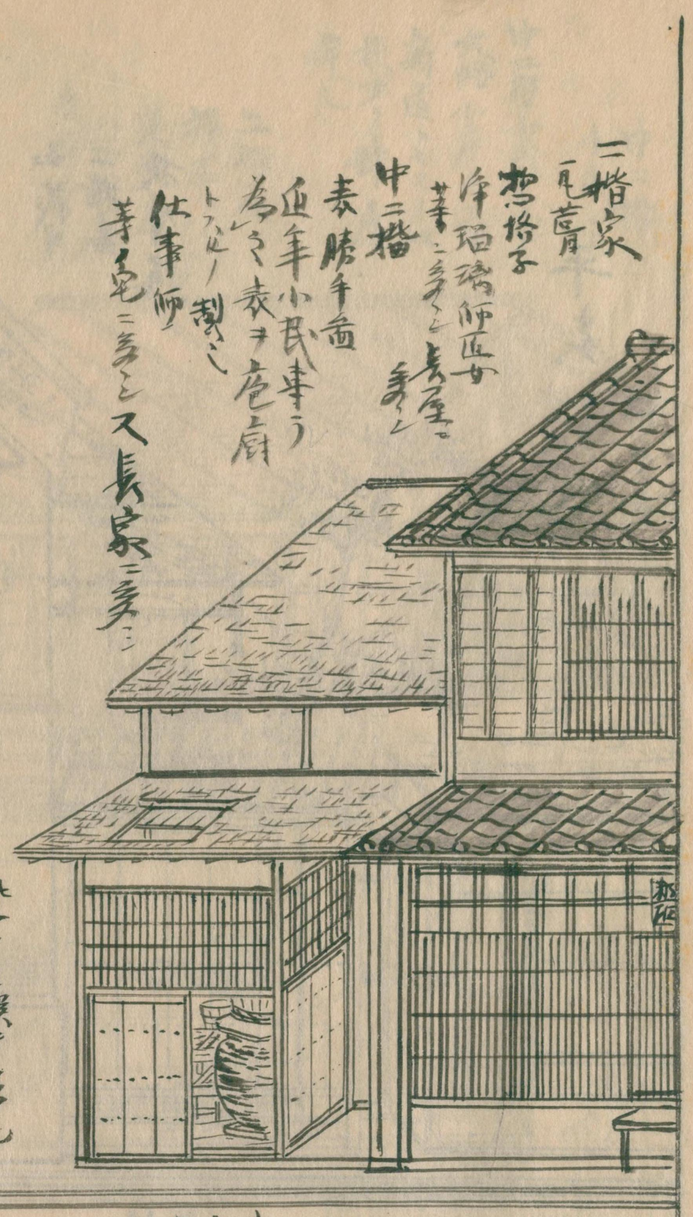
石垣ノ表ヲ
流水ニ
洗ハシム

釘アリ立板ニ
所無シ

板庫ノ下ヲ
通ヒシ八ノ
納土下草ヲ
肖ス
是未ダ
未曾有

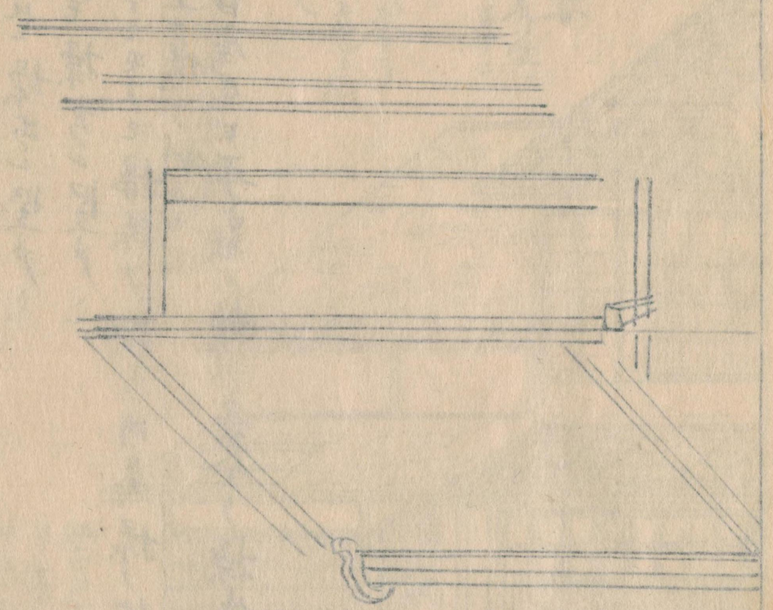
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用



江戸市店抔ヘヲ鎖スニハ前ニ一番スルニ二階屋瓦葺ノモノ又ハ見世蔵等表口大戸其他ヘヲ上下ニ分ツシ大戸ハ上下ニ分ツ故ニ潜戸似タル其他ハ惣ヲ上下共ニ竪ニ押上ケ重ネ止メシ剣戸無ク坐敷等ハ二都共ニ操出シ竪戸シ格子内ニ戸モ操出シ竪戸シ又表上ケ様アルモノモ操操ヲ鎖シ二用ヒズ操ノ他ニ上下戸ニ枚ヲ以テ鎖ノ戸ノ外面ニ上ケ様ヲ剣上ルシ又前一番ノ八百屋及ビ平家ノ類ハ表全ク操出シ竪戸ナリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用



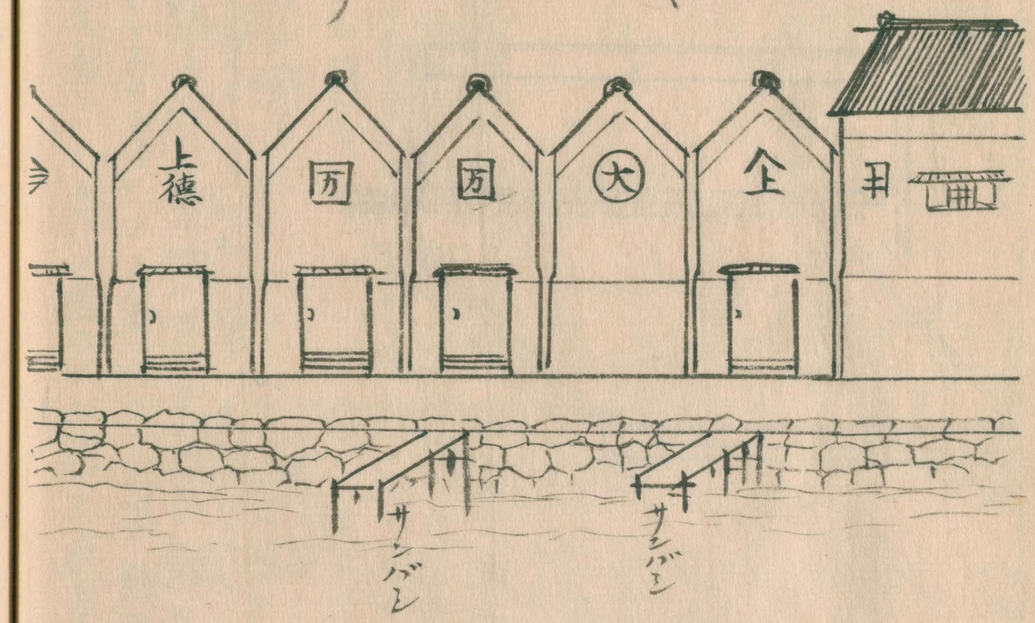
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用

江戸川岸土蔵畨屋根素ヨリ並フセノ多リ平ナル八稀シ又川岸土蔵ニ八事ヲ記トス但号ヲ描ケリ黒漆喰ニテ塗リ上ル

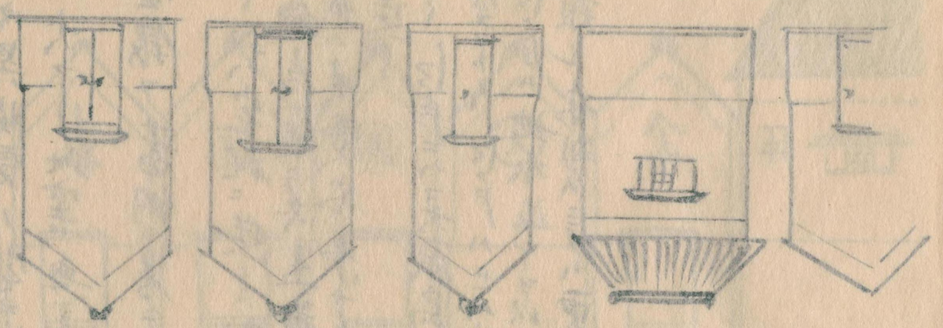
京坂土蔵ニ記ヲ描ズ

川岸土蔵八両口ノ創多シ表口八観音用ト裏白ト二重ナリ川岸口八裏白ノミニテ観音用ヲ存ズ



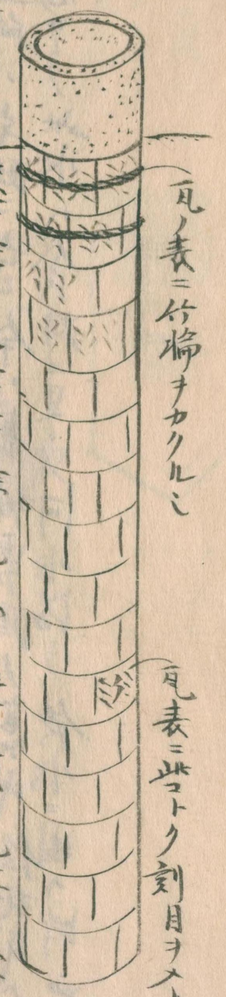
窖

俗ニ穴蔵トス 武書曰昔八窖ヲ用ヒズ明暦二年江戸本所二丁目ノ和泉屋九左エ門ト云ヒ呉服屋ノ宅ニ始テ造ル世人其火災ニ罹ラザル者窖ヲ造ル火災ノ時諸物ヲ是ニ納ル是土蔵ハ其費ヘ容易ナラズ窖ハ易キヲ以テシ武ハ土蔵ノ費ヘアレドモ江戸ニ限リ造ル今世上京坂ニハ富民金銀ヲ蓄納ノ為ニ設ケ故ニ巨戸ニ非レハ不造ル家舗ハ中小ノ戸民ニ造ル江戸モ亦ノ事ヲ造ル武ハ宅裡ニ造ル武ハ土蔵裡ニ造ルヲ金銀ヲ納ル為ニ又中以下ノ家ニ造ルヲ土蔵ヲ造ラザル者窖ヲ造ル火災ノ時諸物ヲ是ニ納ル是土蔵ハ其費ヘ容易ナラズ窖ハ易キヲ以テシ武ハ土蔵ノ費アレドモ地ナキモノ為ニ造ル京坂ニハ定レル窖工無シ江戸ニハ呉蔵島川白町等数カアリ其他諸所ニ在リ上京坂多クハ地名ヲ積ル窖トス江戸ニハヒバ材ヲ以テ造ル窖ニ入水アリ毎時波ヲ立ル故ニ水ノ入ラザル者甚ダ稀シ 本製ニ非レハ水ヲ防キ難シ本製ニハ更ニ水ノ入ラザル者甚ダ稀シ

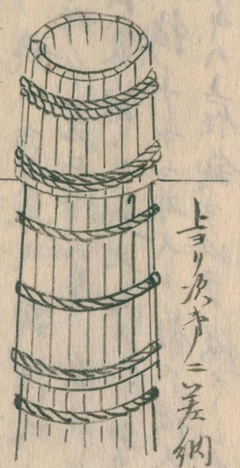


井 今世ノ俗ハ諸国トニ井戸ト云
京都ハ水性清涼ト国ニ冠タリ故ニ飲食ノ用皆ナ井水ヲ用ユ而
水亦戸邨ニ甲タリ鴨河ノ水最人ノ所称ス
大坂ハ井水塩気ヲ帯ノ俗ニ曇ヲカナケトモ鉄気ナシ貯井水鉄錆ニ似タル物
淀ヒ飲食ノ用ニナラズ故ニ飲食ノ用ユル
大坂ノ廚ハ皆ラ二瓶ヲ並ベ置リ河井ノ水ヲ汲運ビテ
リ井水ノ就ニハ魯魚ヲ弁ス別ツ故ニ河水ノ就ニハ益ヲ
井水ハ諸物ヲ洗ヒ浄ムル等ノ雑用トスルニ河水ハ飲食ノ用トス
穢ラハ飲食ノ用トス而ル河水ハ朝東ヲ撞鐘ニ合シ
穢ラハ飲食ノ用トス而ル河水ハ朝東ヲ撞鐘ニ合シ
又撞鐘十年ニ非スト雖モ坂人ハ則チ特ニ厭ハズ官令ナキヲ以テ船舟交
又撞鐘十年ニ非スト雖モ坂人ハ則チ特ニ厭ハズ官令ナキヲ以テ船舟交
似タリ一町大略四五六丈遠近ヲ以テ傾ス川岸ノ地ハ一丈
又掘抜ト号ヒテ別制井アリ普通ノ井ハ地水ナルヲ地水ハ元来海鳥麦ヒ
陸ナル国故ニ塩気ヲ帯ル掘鑿シ掘ヌキリ
者ヲ汲ムヒテ高津西坂ノ坤軸ヲ貫キ清水ヲ吟ノ
町ニ在ル一所ハ戈政ニ在ル今ハ長堀東渡ノ
一所ノミ存リ井水ハ食料ニ足リ河水ハ飲水ニ用ヒ
民ノ裏民住友氏ノ前同等
飲水ニ用ル時衆人挙ノ

京坂井



江戸井



凡表ニ竹輪ヲカクルシ

凡表ニ此コトク刻目ヲ入レ

凡大サ大概方一尺

江戸ニ赤海憂ト云ル地ニ多ク井水塩気アリテ市民悉ク遠所ニ汲ミニ馬ニテ上水ヲ運ブ又江戸ニ堀抜井アリ是ハ玉川及井ノ允ノ水ヲ水道ニ引キ流セシモノニ其制尋常ノ井ノ如シ掘リ下ノ側底ニ一穴ヲ穿チ是ニ節ヲ去リ若干段ニ及ビ清水ヲ呼ブ又右ノ如キ制ニ拠ラズ始テ鉄竿長二三丈ニテ岩ヲ突貫ト称シ地中一四ノ岩ヲ掘リ抜キ清水ニ非ズ地脈ヲ貫キテ清水ヲ浦出ス其鉄竿ノ穴ヘ竹筒ヲ下シ其上ニ井側ヲ掘リ抜キ大抵ヨリ是又多シ

又中水ノ井ト云リ堀抜ニ非ズ上水ニ非ズ二流ノモノニ雑水ニ用ヒ夏月納涼等ノ外冬ニ入テハ此井ヲ以テ飲料トス前ニ地中岩ヲ穿ツ水ヲ冷スニ良ナリトシ奥店ニ

塵塚誌ス堀抜井戸昔ハ費金二百両許ナル故ニ大賈ヲ造リ江戸
称ニ在リ雨色ニ三十年来大坂ヨリ井夫来リ「アナリ」トモ妙異ヲ
察スル庶幾ハ異ナシ

厠 俗ニ雪隠トス京坂俗ハ雪隠ト称テモ「セン」ト云モアリ婦女ハ「ヨウカン」ト云ハ
さし男モ人前ニハテウツバトさし江戸ニテハ男女共ニ雪ノ字ヲ用ユトさし又テウ
ツバトさハ手水場ト

長屋ト号テ一棟数戸ノ小民ノ借屋ニハ毎戸ニ厠ヲ造ラス一二戸ヲ造テ数戸ノ
兼用トスルヲ常トス

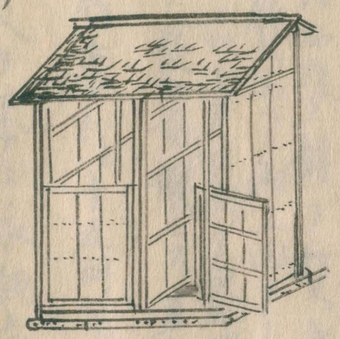
京坂ニテハ惣雪隠トさ江戸ニテハ惣ガウカトさ

京坂惣雪隠ニハ皆動ヲヅキ周リ及ビ二戸ナルハ半ノ隔ヲ壁ヲ用ヒ床アリテ戸ヲ全ク閉ヅ

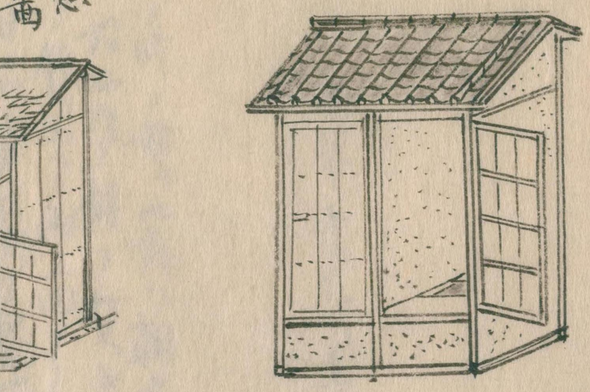
江戸ノ惣ガウカハサニ非ズ式ハマチヲヅキ周リ羽目板壁無床ニテ戸ヲ半戸ナニヒシ
ト云ヒ栄ト云鉄具ヲ用ヒズ細キ一杖ヲ截テ是ヲ通シ戸ヲ是ニ立ツ画ノ如シ

又画ノ如キ一棟二戸ノ厠ヲ二戸立ト云一棟一戸ヲ一戸立ト云

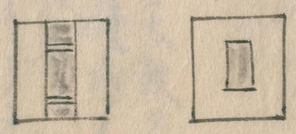
三都共ニ毎戸ニアルモノハ間ヲ壁ニシ前ニ窓ナドヲ穿チ「ヒバマト名ケテ中央ヲ穿チ四方ヲ板ニテ惣ニハ左右ニ板ヲ架スノミニテ扉ヲ取ル二前方ノ板ヲ上ゲ去リテ汲ミ



フミ板



ヒバマ



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

自二尺餘ハ床下ノ外面ニ口ヲ設ケ用ヲ云ヘ屋ヲ設ケ之ヲ都尼專ニ此制シ

時ノ鐘　京師ハ千本通ニ在リ

大坂ハ上町ノ石町ニ在リ一所ニ此鐘ハアリ其時賜ハリシ所ト云傳フ

将軍家光公里居ノ席下坡

深セ

江戸ハ本石町ニ一所是ホ　家光公ノ時ニ始ル　朝夕六ツニ太鼓ヲ六ツ昼ヨリ鐘三ツ宵夜十二時ヲ撞ク始西丸ノ鐘ヲ貸玉ヒ新鐘成テ後返シ其後又鐘焼損ノ時ハ西丸ヨリ貸玉フ両ノ間アリ其後無シ

鐘楼始ハ鐘後深セ宅中ニ在リ中古ノ戸立間ノ墨地ニ造リ元禄十三年ヨリ俗ニ土蔵造リト云　鐘楼ヲ堅牢ニ製ス　享保中新造ヲ始テ後同ク十二間保裏行十九間半ヲ鐘楼ノ地寛永中ニ一文ヲ募ル永銭一文ヲ募ル永銭廿ニテ後小銭ニテ後ノ費トニテ地面表間口拾弐間永銭四文ヲ募ル其坊数凡四百十町ニ一年四十八文ニ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

本所一所　万治中本所開発以後横川通中ノ橋辺ニアリ　天和中ニ耕地ニ復スニヨリ中絶ス　元禄元年本所再士民居トナルニヨリ鐘楼ヲ再造ス　費銭ヲ募ルニ西ハ浅草川　北ハ半島　東ハ亀戸天神社辺　南ハ深川ニ至ルヲ限トシ　武家ハ禄ニ應シ　社寺民家ハ表間口一間手次ニ銭ヲ募ル

此鐘楼地間口八間　裡行二十間也　当地名今ハ入江町ト云

此二所ノ外ハ諸所大寺ノ鐘ヲ以テ時ヲ告リ

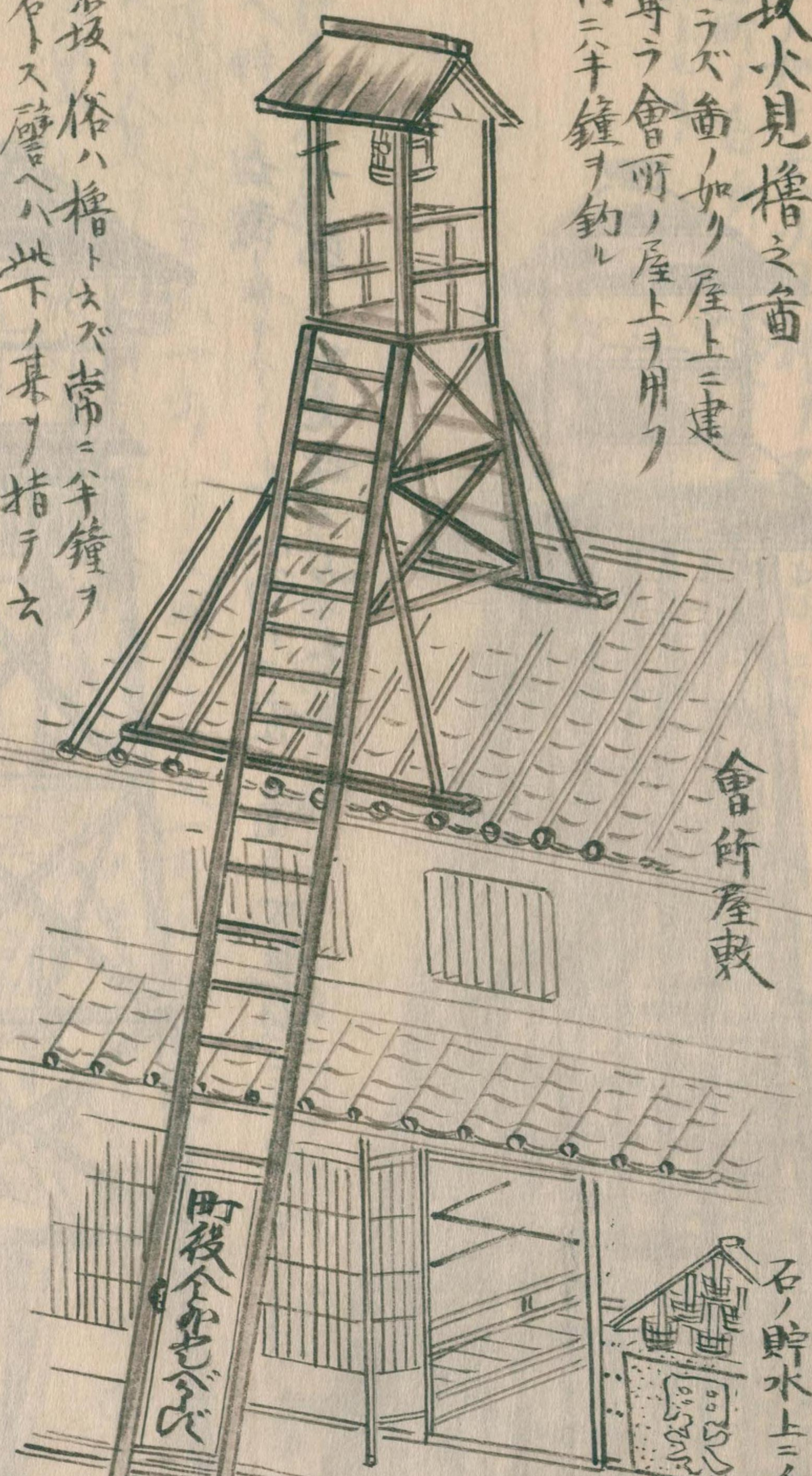
大坂毎町四ツ辻ニ初更ヨリ五更明六ツ時迄毎時太鼓ヲ打テ時ヲ報ズ　夜五ツヲ初夜トシテ初夜五ツ戌刻四ツ子九ツ丑八ツ寅七ツ卯六ツ辰ハ打ノチ又貝ハ打ノズ所内下役ノ看夜番ヲ兼子勤ム　毎時半ニハ鉄棒　或ハ割竹ヲヒク　太鼓モ首ニカケ巡リ打ツ也

江戸ハ八十月ヨリ三月晦日迄毎夜五ツ以後明六ツ迄毎時拍子木ヲ打テ巡リ鼓ズ　是番太郎ノ役トス　数日前

四月朔日ヨリ九晦ノ間ハ夜五ツ四ツヲ鼓ズノミ　九ツ後ハ柝ヲ拍ズ

大坂火見櫓之図

必ラズ図ノ如ク屋上ニ建　専ラ會所ノ屋上ヲ用フ　内ニ半鐘ヲ釣ル



石ノ貯水上ニ手桶ヲ積ム

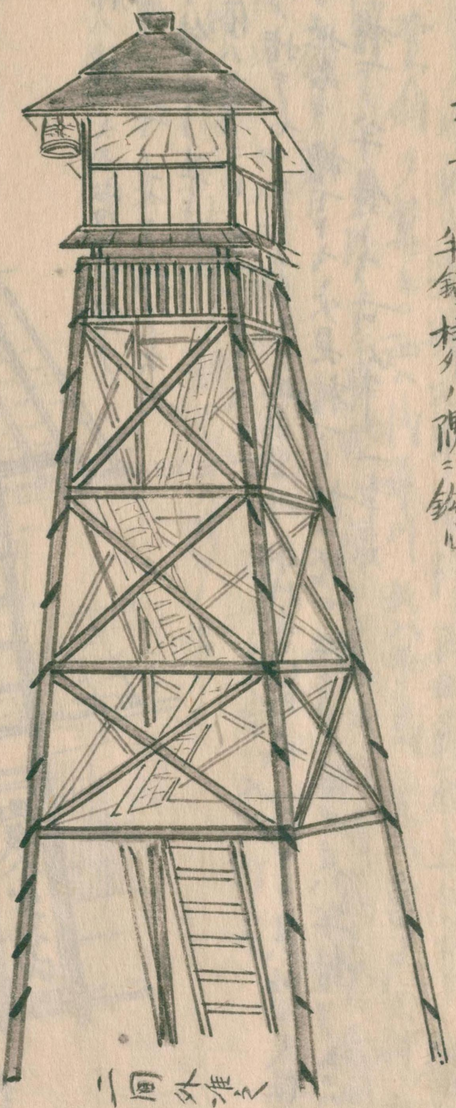
大坂ノ半鐘ハ拍之ニ急寛アリ以テ火場ノ遠近ヲ鼓ス

京坂ノ俗ハ櫓ト云ズ常ニ半鐘ヲ名トス　譬ヘバ此下ノ某ヲ指テ云時ハ半鐘ノ下ノ某ト云也

江戸ノ俗ハ常ニモヒノミヤグラトモ其ノ下ヲ指テヤグラトモ云　然ルニ深川永代寺門前町ニ一所アリ　其ハ所ニ天保以前娼家アリ　此名ヲ櫓下ト云　火見櫓アル故ニ俗ニ称シテ而ク其ハ半鐘ヲ云ニハ櫓上ト云ズ　尚櫓下ノ半鐘トモ云　可笑ノ一事也

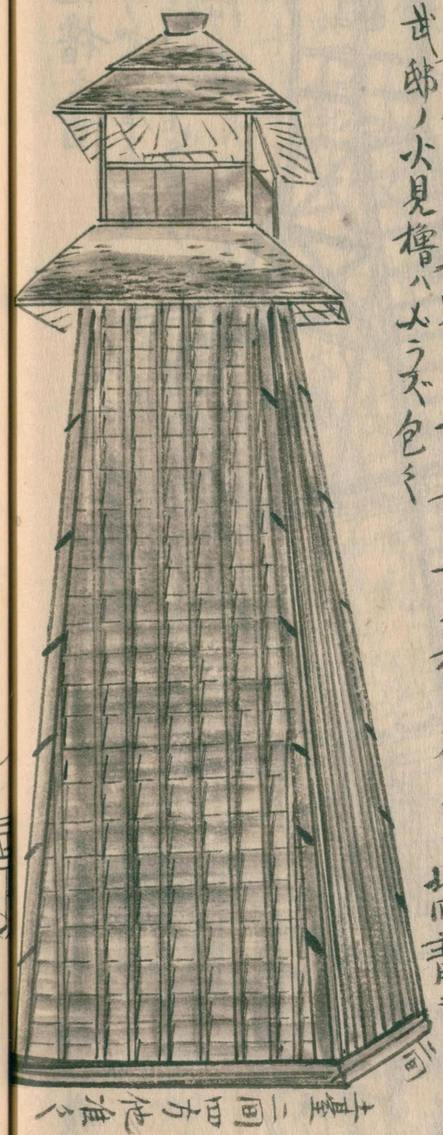
江戸火見櫓番　大略十町ニ一所四方地ニ建　費共隣ニ課ス

半鐘柱外ノ隅ニ釣ル



右番ノ如キアリ　表四面共ニ左ノ番ノ下見板ニテ包ミ切回番ニ

武邸ノ火見櫓ハ必ラズ包ミ

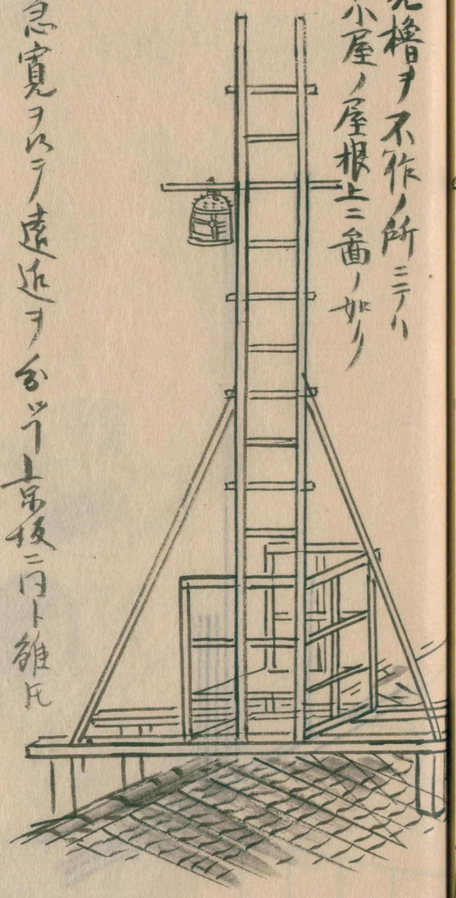


番ニ同ジ

右ノ如キ大火見櫓ヲ不作ノ所ニテハ

毎町ノ自身番小屋ノ屋根上ニ番ノ如リ

作ルモリ



番ニ同ジ

江戸半鐘モ急寛ヲ以テ遠近ヲ分ツ　又特ニ密制アリ

遠所ノ火事ニハ一打ニテ又間アリテ又一打シ

火消人足ヲ出スベキニハ二打ヅヽ打ツヽテ人夫ヲ

急繋ニ打ツ　町内及隣町ノ火ニハ撞木ニテ打チノ摩ル

京坂竈之畚

竈ヲ俗ニヘツイト云又訛テヘッイトさし

畚ノ如キヨノ三ツヘッイトヲ竈口ニアル故し家内人数三五口ノ家大略用ヲ多人数ノ家ニハ竈口五口七口九口等アリ

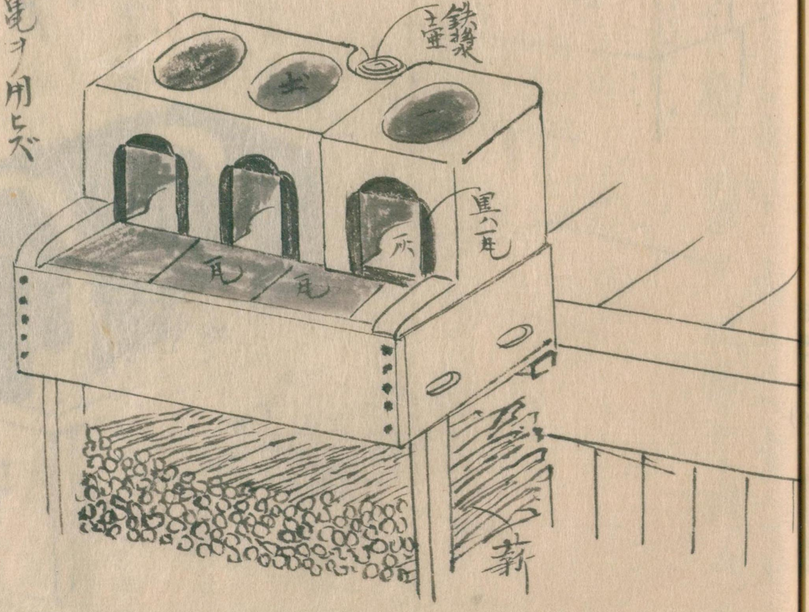
五ツヘツイ七ツヘツイトさし

竈土色黄ニし黒又り無ク又銅竈ヲ用ヒズ

又京坂ノ竈ハ場ヲ前ニ床ヲ背ニスル又畚ノ如ノ鉄漿壷ノ坐アルヿ必ズトセズ不製ヲ者亦多キ

又竈口ノ前及ビ竈底等平瓦ヲ敷ク竈口ノ周リモ亦瓦ヲ用ノ

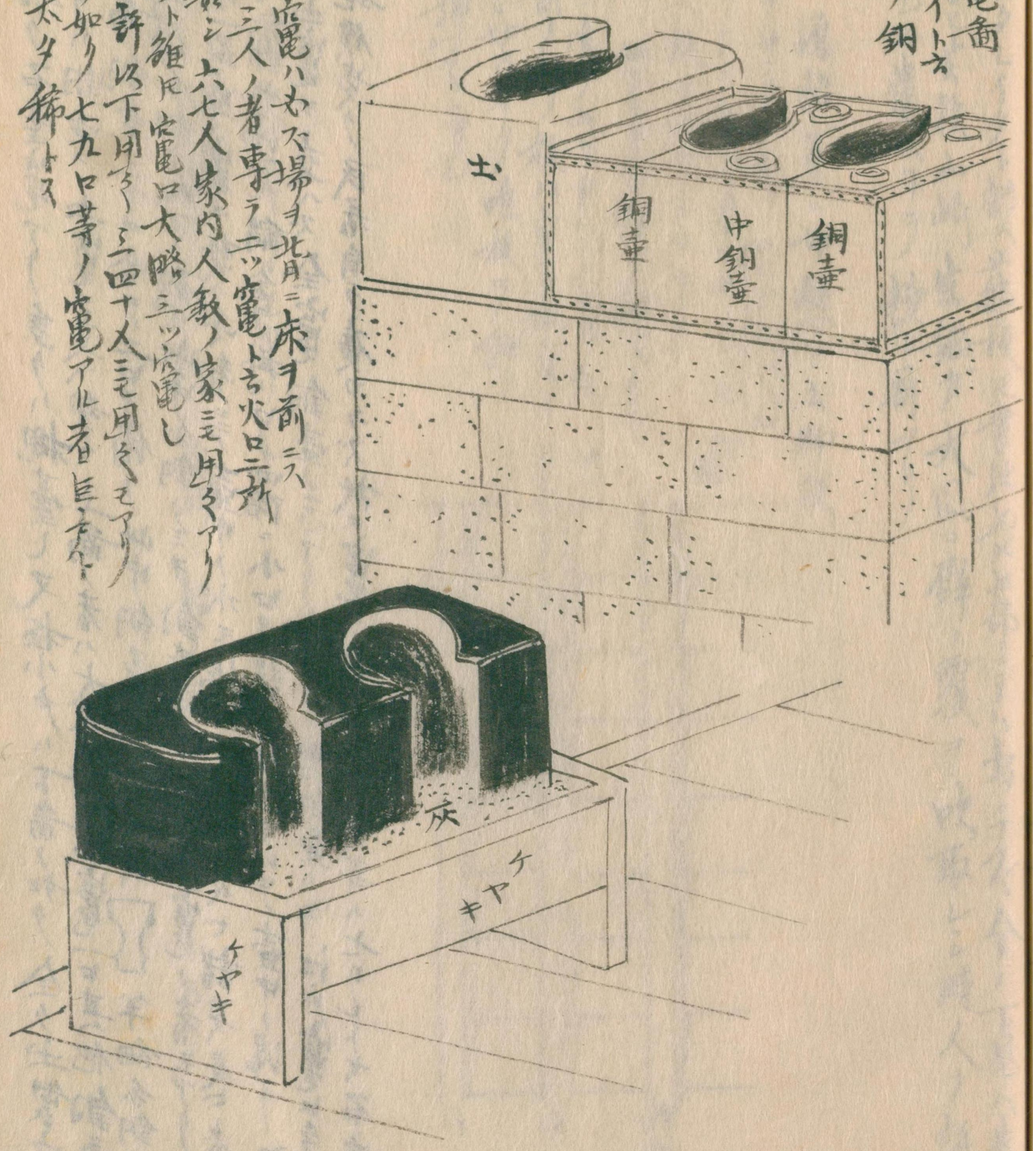
又竈屋多ノハ杉材し



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

江戸竈畨
俗ニヘッイト云
銅竈ヲ銅
壷ト云



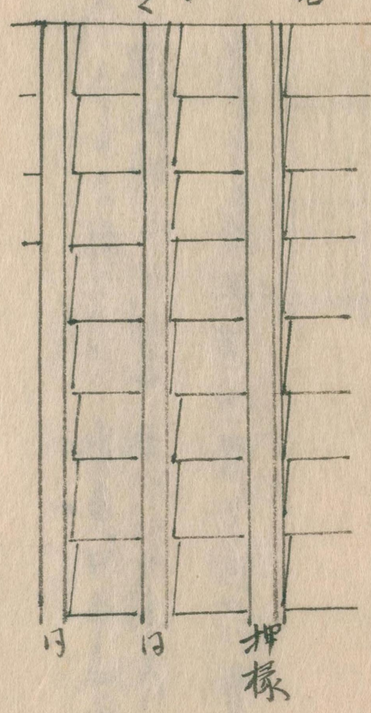
江戸ノ竈ハ広キ場ヲ北背ニ床ヲ前ニ六
人数ニ二人ノ者専ラ二ツ竈ト云火口二所
下面ノ如シ六七人家内人数ノ家ニ用ユアリ
多人数ト雖モ竈口大略三ツ位竈し
二十人許以下用ユアリ二四十人ニ用ユアリ
京坂ノ如ク七九口等ノ竈アル者巨大ト
雖モ太タ稀ト云

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41
ガラス使用

前畨ノ如ク石釜竈アリ多クハ櫃釜シ又極小戸ハ下畨ノ如ク全ク土製竈ヲ用ヒ多クハ釣壷ノ土竈ニ交ヘ製ス上畨ノ者ハ大釜ノ所土竈一口其他釣壷二口アリ此畨ノ釣壷ヨリ分釣トセ半細分釣形ノ釣壷ヲ設ケ故ニ多釣シ似タ故ニ此中分釣ノミヲ釣壷ニシテ左右土竈ノ者モアリ釣壷ニハ水一盃ニ盛ル竈ヲ焚ク小孔ニテ壷中ノ水モ good 洗濯等ニ用ヒ湯トナル暖水及ビ諸具及ビ衣服備ノ又土竈ヲ上ニ交ヘズ全竈釣壷ノ者アリ是ヲ設ケ柄杓ヨリ壷中ノ湯ヲ汲ム二ラザル地便宜ノ民居自ラ廣カラズ故ニ竈ヲ減シテ諸具毒ハ七リレトセ石竈ヲ用フ

下見板ニタテイタト訓ス蓋板モ書故ニ此ニ及ベリ壁ノ寸ニヒト云故山崎等鑑ガ大風ニ壁ノ破ヲ気ヲ元ニ遣スヲラ讀ル哥アリ

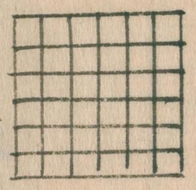
サラマ 源語蓍ニ也懸ト云物故此形ニキリカクルヲラノ如ク下見モサラマモ下ヨリ上ヘ板ヲカサネヤケニノ此ヲトリニ打テ押ブチヲモ其ニ准テキリカケタルヲ云下見ハ畨ノ如リ板ハ重ネ掛シ元押ブチニ切目ヲリ唯板ヲ細リ割ヲ押ベキ故

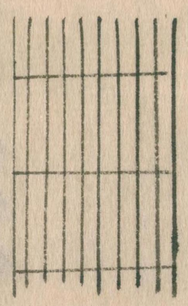


矢来 古ノ矢フセキニノモガリシ朝鮮矢来 宝暦中朝鮮人来聘ニ始ノ製ナ故ニ名リ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

格子連子ノ事　格子ト云ハ竪横共ニ同ス二組タルヲ格子ト云今俗ハ竪ノ格子ト云又竪ノ子ヨリ横ハ少シ大ニ竪ヲ横尺ニテヲ用ヒルヲ今俗ハ皆ヲ格子ト云





京格子ト云ハ連子ノ竪子特ニ細ヤニ多ノキヲヲキ竪子ヲ針ヤニシタルヲ云歟又竪子ニ貫ヲ通サズ貫ニ竪子ヲ針ヤニシタルヲ云歟

江戸ノ座格子ハ連子ノ竪子ヲ繁リ通細キヲヲキ江戸ノ座ハ江戸市民名称通リヲ云江戸ノ座ハ江戸ノ町人ヲ云今ヲ孫ノ有無ヲ和ラゲ中ニ入リヲ孫ノ有無ヲ和ラゲ守貞曰今和ル

問屋格子ハ竪子大略二寸四五分角材ヲ以テヲ用ヒ竪子ノ間モ竪子ト同ス是亦連子ノ太キヲ大賈専用ヲ蓋賈物ヲ固ヲモトセズ

角太格子　杉檜太皮ハダノマヽヲ二ツ割ニシテ竪子ニ用ヒ皮膚ヲ表トスルヲ太サ及ヲ其割目ノ広狭ヲ格子ニ似テ夢想ト云ヒ程トシ昼ハ角太ニ重ヲテ用キ夜ハ竪子ノ間ヲ塞ノ此格子ハ酒醤ノ賈人及ビ鍛冶ノ家専ラ用ヒル

建具　今ノ俗ノ障子　唐紙　襖等ノ総名ナリ　古ハ専ラ衾障子ト云シ
六尺四寸或ハ六尺ノ板ヲ以テ作ル　故ニ衾障子ト云フ　普通ノ長六尺三寸中広二尺四寸ノ
又両ニ折ノ天正中迄ハ凡テ民家無而不ノ如キ両ノ小窓同外面ノ
因テ上略ノ称ナリ　紙製ノ称ナリ　其大略ヲ左ニ
等用ル

障子　今世障子ト云ハ専ラ美濃ヲ用テ張ルヲ以テ普ハコレヲ明リ障子
トシ　障子トノミ云ハ今ノ京坂ニテフスマ　江戸ニテカラカミ

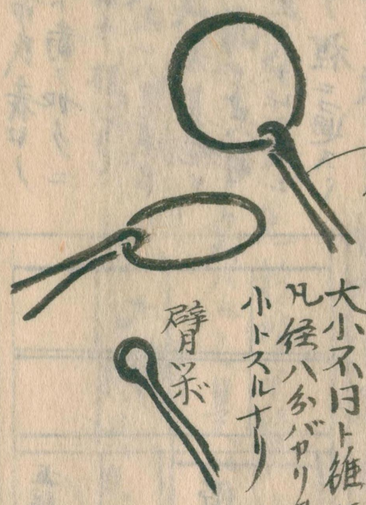
唐紙 京坂ニテフスマ襖シ江戸ニノカラカミ
ヲフスマ障子トカキシ又唐紙トカキハ紙面有紋他紙ト異ナルノ名ニ
凡物ノ異ナル唐ノ産ト云ル例多シカラカミハ唐紙障子ノ下略シテ
唐紙トカケリ来舶ノ物ニ非ス今来舶ノ物ノタウシトテ唐渡音近キ故ニ
来舶ニハ渡紙ト書リ

辟下地ニ用ル忍竹ヲ江戸今俗ハ下地ト云ル竹ヲシ婚迎ニ云ル一我理物語ニ雨モ小ヤニテ辟下地ノニノベ竹ニ
白玉ノ露ソヘリトハコマイ竹ヲスカシ大ナル集政直カ句ニサヘツラハ鳥
羌掉モシノベ竹又雞州府志竹条ニ一種其茎細長而其葉与大
世是称ス竹又譜忍竹建昌ヨリ比並而為垣又半破之編横結来之
為墻壁之骨ニ字貞ニ十ヒ竹ハ弱竹ナヨタケノ訛歟

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

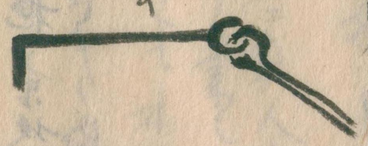
嬉遊ニ「ニンサ」ハ後指シ「カケガ」ハ
見又若葉上ミサウニノミリハカタメンケ
名シ又タ両端巻マナタヨリマリサスガ「ニ」
通スサウジノ端ノ方ニカケカケルニタル処
如リ「カキカ」ハ景清双帋ニハ「ニンチャウ」ハ八
注ニ「エッケチャウ」ハ七枝七ルベンハサウハ八相ヲ中
桶有名ナヨ猿カトハ寛永奈良ノ蔵具ノ
ヲ辻寛永年ノ蔵ニ押明テ今朝クル手ノサル
ト云ハ何ノ由ニカアラン猿ハ人ノ手ノ
如ク手ノキリモノ故ニケヨ猿手ニタトヘニヤ
手長猿ノ手ヲ組合セ名ル形ニ似名ルヨリ手
ノ猿臂ニ作ルハ非シ桶モ此金物ノ形ヨリ猿
ノ名アル歟

今所用
掛鉄



此二本足ヨリ下ニ有ル下ヲ背ニ
臂ト云モ同ジク又カケカケニ
大小不同ト雖ト
凡径八分バカリヨリ
小トスルナリ

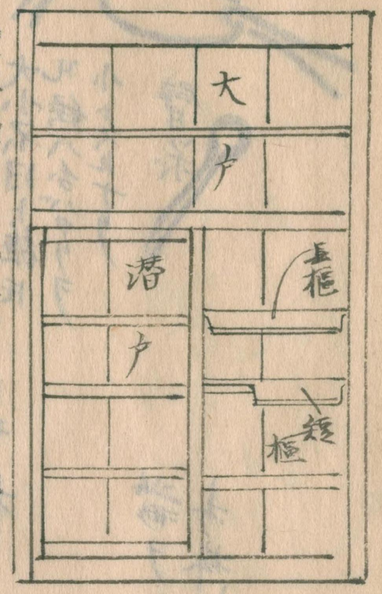
臂ト云



掛子
手掛ト云

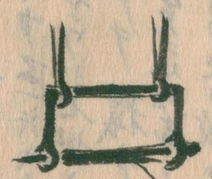
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

名
櫃 京坂市民表口ノ
ナドハ下面ノ如クニ
櫃長短二ツヲ作レリコ
ハ夜中人来ハ先其名
ヲ問ヒ而テ後先長櫃ヲ
上ケ潜ヲ僅ニ明ケ其面
ヲ見テ可否人ヲハ次ニ
短櫃ヲ上テ復ニ通スシ
其盗難等故ニ江戸ハ盗難ヲ防ニ此ツヲ一櫃ヲモ設ケ稀シ



櫃 京坂ニテクロ
ドトリ俗ハサルトモ

南蛮櫃 京坂ノ名江戸ニテ見ズ様ト云鉄刮シ婚嫁ニ用ル様ハ見ズ製狭



此所従来ノ制ハ両端細ノ央太キリニ迄手ノ制ヲハ上
面ノ如ク羽ヲ付タリ此ヲ端ヲ以テ扉ヘカヘザレハ明ズ
此四五年ハ京坂モ羽アルヲ見ス 前述ノ京坂ニモ羽アルヲ見ス
普通大ヲ竪ヲ餘横ニ寸ニ分リ

京坂ノ家宅ヲ造リ土蔵ヲ建ル始メ先地ヲ突堅ルシ
土蔵ヲ建ルニ行ク〳〵家宅ニハ巨戸ハ行ク〳〵モ締ニアレ共多クハ不ラ〳〵
此地ヲ突堅ルヲ京坂ニテ地突トモ地形突ノ下略
ナルベシ
嬉遊笑覧ニ地ヲナラシ突堅ルヲ土突トモ
又地ツキ戸ニ其土砂ヲ運ブヲ砂持トモニテ土突
スルニサヘ〳〵ノ興アルコヲ雇スヲ見物ニ集ル者多シ是ヲ京難波ニ
何ノホドヨリ戸ニ知ズ今宮 祇薗 等祭祀ノ俄ナドノサマニモ均ニキヲ
男ヘベ元文ノ頃ヨリ興アルコヲスルニヤ〳〵

京坂ノ地突ハ石数ヲ柱下ニ突キ入レシ
江戸ニモ此京坂ヨリノ石ヲ突入ルヲアル所東
四五尺ヲ堀リ此ノ下ニ長二間許ノ杉材ヲ
其上ニ地石ヲ並ルヲ幅畑ト云其ヒ石ノ上ニ又地石ヲ横ヘ土蔵ヲ
建ルシ

三都共ニ突ニハ先杉材ヲ敷テ杉材ヲ作リ其上ニ数人上リテ
ドリツキヲ見ヨヲ突入レシ是皆千傳七高ノ者ノ業シ
足代ノ上ヨリ大音ニ唄ヒテ綱ヲ引リ其唄又曲節ヲ異ニス

本ハ輿櫂シ京坂ト江戸ト其唄又曲節ヲ異ニス

ヒツキ地突ヒキヤウ地形トモ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

喜遊奨覧ニ砂持ノイヨヲシハ江戸ノ
祭ヲ更ニ興ス京坂ハ今モ有ラン
始ニ行ヲ其助カニ出ル児童ヲ集
ヲ非ズ人家ノ貴ノ
民間ニテズ神社仏堂ヲ造ル
トス男女童ニ有ラ又老若男

前ノ髪ヲ剃ル者ヲ以前ノ童形ハ髪中
中剃ヲ武家若衆以下ノ七歳ハ院ニ
七歳ノ中剃ハ誤筆ヲ髪形ニヲテハ無
誤筆シ

申剃トタル如
可ヒシ外六箇
准ラ

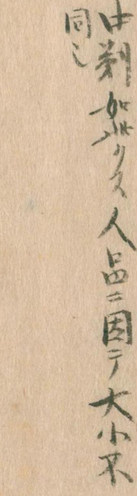
中剃如クラス人品ニ因テ大小有
同シ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

喜遊笑覧ニ砂持ノイヲヘシハ江戸ニ
奏ヲ更ニ舞ヒ京坂ハ今モ有ヒ造リ
始ニ行ヒ其助カニ出ル児童ヲ東ト又老若男
女十年ニ非ズ大小隨意ノ筵ニ入ヲ棒ノ両端ニカケ荷ト砂ヲ是ニ
盛リ運ビシ無実砂ヲ運フニ
ルヿ喜遊ニ云ヘル如ク生業大坂玉造稲荷社再造ノ時砂持大ニ行レ
助ケヲヨ諫メ止ム者神罰ニテ病ヲ受ケト旧説セシヨリ今
ニ至リ諸所ノ砂持ニ砂持セニモノハハナシ
思枚裏里病ハ附會ノ説シ腰裏ノ訛ト
ハナシロ「車」トセヒヒ持運フシ
説シ心正カラサルヲ古ヨリ腰ノロトス

七歳ノ中剃ハ誤書シ髪形ニテハ無
[illegible]

申剃ニテル如ク
可重シ外六歳
唯ヒ



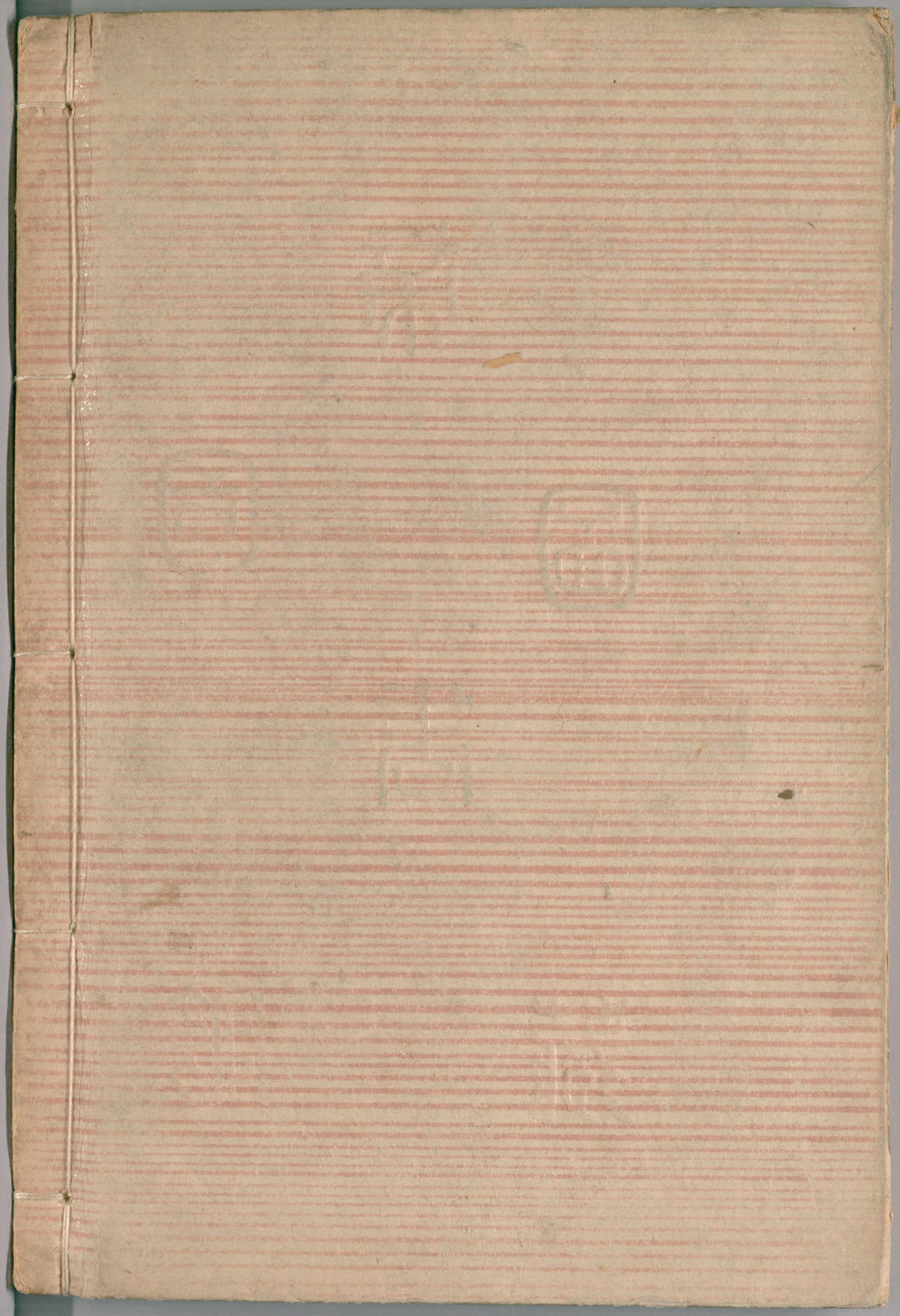
中剃如ク人品ニ因テ大小共
同シ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

30
15

国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用